

至 自
年 年
月 月
日 日

國際思想研究會關係一件
(オーストラリア協會關係ヲ含ム)

第
卷

外務省
記 録
至 自
年 年
月 月
日 日

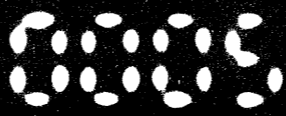
國際思想研究會關係一件
(オーストラリア協會關係ヲ含ム)

第
卷

門類項目號

5
4
5
1
9

I-0720



國際思想研究會設立趣意書

世界の秩序は東西の國家が正義人道を重んじ互に他の國體を敬するを以て基調とす。然るに第三インターナショナルは其唯物觀に依りて全社會を律し宣傳、煽動、擾亂等諸有手段を用ひて廣く其主張を強行せんとす。是れ正義人道に悖り獨り我建國の精神と相容れざるのみならず國際間の秩序を紊すものなり。

因りて茲に國際思想研究會を設立し海外同趣旨の團體とも連絡して第三インターナショナル其他各種主義者の思想及其活動を調査検討し以て我國體の擁護並に國際正義の推弘に貢獻せんとす。敢て同憂諸賢の贊助を冀ふ。

昭和八年九月二十三日

發起人

男爵 平沼騏一郎



9451-9

01

I-0720

水町 袈六
子爵 岡部 長景
赤池 濃
男爵 井田 磐楠
花岡 止郎

國際思想研究會規約

第一 目的及事業

第一條 本會ハ正義人道ニ悖リ我建國ノ精神ト相容レザル第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻スルコトヲ目的トス

第二條 本會ハ右目的達成ノタメ在瑞西反第三インターナショナル國際協會其他同種ノ團體ト提携シテ概ネ次ノ事業ヲ行フ

- 一 第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及活動ノ研究調査
- 二 第三インターナショナル其他ニ對スル日本及各國ノ對策ニ關スル研究及調査
- 三 日本及各國ニ於ケル同種ノ研究機關ト調査及情報ノ交換
- 四 講演會ノ開催、調査及報告類ノ刊行

第二 名稱及事務所

第三條 本會ハ國際思想研究會ト稱シ、事務所ヲ東京市麴町區永田町二丁目六十二番地ニ置ク

第三 會員

第四條 本會ノ趣旨ニ賛同シ理事會ノ推薦ニ依リテ入會セル者ヲ以テ會員トス
會員ニシテ本會ノ趣旨ニ反スル者ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルベシ

第四 役員

第五條 本會ニ相談役若干名理事三名及主事一名ヲ置ク
第六條 理事ノ更迭ハ理事及相談役ノ合議ニ依ル
理事會ハ會務ヲ執行ス

理事會ハ常務理事一名ヲ互選ス

第七條 理事會ハ常務理事ヲシテ常務ヲ綜攬シ且本會ヲ代表セシム
相談役ハ理事會之レヲ委嘱シ重要會務ノ相談ニ與ル

第八條 相談役中一人ヲ會計監督トシ理事會之レヲ委嘱ス
主事ハ理事會之レヲ囑託ス
主事ハ一般ノ事務ヲ司ル

第五 會計

第九條 本會ノ諸經費ハ、寄附金及事業收益其他ヲ以テ之レヲ支辨ス

補則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委嘱ス



9451-9

03



9451-9

02

國際思想研究會設立趣意書

世界ノ秩序ハ東西ノ國家ガ正義人道ヲ重ンジ互ニ他ノ國體ヲ敬スルヲ以テ基調トス。然ルニ第三インターナショナルハ其唯物觀ニ依リテ全社會ヲ律シ宣傳、煽動、擾亂等諸有手段ヲ用ヒテ廣ク其主張ヲ強行セントス。是レ正義人道ニ悖リ獨リ我建國ノ精神ト相容レザルノミナラズ國際間ノ秩序ヲ紊スモノナリ。因リテ茲ニ國際思想研究會ヲ設立シ海外同趣旨ノ團體トモ連絡シテ第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻セントス。敢テ同憂諸賢ノ贊助ヲ冀フ。

昭和八年九月二十三日

發起人

15



9451-9

04

相談役中一人ヲ會計監督トシ理事會之レヲ委囑ス
第八條 主事ハ理事會之レヲ囑托ス
主事ハ一般ノ事務ヲ司ル

第五 會計

第九條 本會ノ諸經費ハ、寄附金及事業收益其他ヲ以テ之レヲ支辨ス

補 則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委囑ス



9451-9

05

I-0720

國際思想研究會規約

第一 目的及事業

第一條 本會ハ正義人道ニ悖リ我建國ノ精神ト相容レサル第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻スルコトヲ目的トス

第二條 本會ハ右目的ノ達成ノタメ在瑞西反第三インターナショナル國際協會其他同種ノ團體ト提携シテ概ネ次ノ事業ヲ行フ

(一) 第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及活動ノ研究調査

(二) 第三インターナショナル其他ニ對スル日本及各國ノ對策ニ關スル研究及調査

(三) 日本及各國ニ於ケル同種ノ研究機關ト調査及情報ノ交換

(四) 講演會ノ開催、調査及報告類ノ刊行

第二 名稱及事務所

第三條 本會ハ國際思想研究會ト稱シ、事務所ヲ東京市麴町區永田町二丁目六十二番地ニ置ク

第三 會員

第四條 本會ノ趣旨ニ贊同シ理事會ノ推薦ニ依リテ入會セル者ヲ以テ會員トス

會員ニシテ本會ノ趣旨ニ反スル者ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルヘシ

第四 役員

第五條 本會ニ相談役若干名理事三名及主事一名ヲ置ク

第六條 理事ノ更迭ハ理事及相談役ノ合議ニ依ル

理事會ハ會務ヲ執行ス

理事會ハ常務理事一名ヲ互選ス

理事會ハ常務理事ヲシテ常務ヲ綜攬シ且本會ヲ代表セシム

第七條 相談役ハ理事會之レヲ委囑シ重要會務ノ相談ニ與ル



9451-9

07



9451-9

06

I-0720

相談役中一人ヲ會計監督トシ理事會之レヲ委嘱ス
第八條 主事ハ理事會之レヲ囑托ス
主事ハ一般ノ事務ヲ司ル

第五 會計

第九條 本會ノ諸經費ハ、寄附金及事業收益其他ヲ以テ之レヲ支辨ス

補 則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委嘱ス

國際思想研究會規約

第一 目的及事業

第一條 本會ハ正義人道ニ悖リ我建國ノ精神ト相容レサル第三インターナショナルナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻スルコトヲ目的トス

第二條 本會ハ右目的達成ノタメ在瑞西反第三インターナショナル國際協會其他同種ノ團體ト提携シテ概ネ次ノ事業ヲ行フ

(一) 第三インターナショナルナル其他同種主義者ノ思想及活動ノ研究調査

(二) 第三インターナショナルナル其他ニ對スル日本及各國ノ對策ニ關スル研究及調査

(三) 日本及各國ニ於ケル同種ノ研究機關ト調査及情報ノ交換
(四) 講演會ノ開催、調査及報告類ノ刊行

第二 名稱及事務所



9451-9

09



9451-9

08

I-0720

第三條 本會ハ國際思想研究會ト稱シ、事務所ヲ東京市麴町區永田町二丁目六十二番地ニ置ク

第三 會員

第四條 本會ノ趣旨ニ贊同シ理事會ノ推薦ニ依リテ入會セル者ヲ以テ會員トス
會員ニシテ本會ノ趣旨ニ反スル者ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルヘシ

第四 役員

第五條 本會ニ相談役若干名理事三名及主事一名ヲ置ク

第六條 理事ノ更迭ハ理事及相談役ノ合議ニ依ル

理事會ハ會務ヲ執行ス

理事會ハ常務理事一名ヲ互選ス

理事會ハ常務理事ヲシテ常務ヲ綜攬シ且本會ヲ代表セシム

第七條 相談役ハ理事會之レヲ委嘱シ重要會務ノ相談ニ與ル



9451-9

10

相談役中一人ヲ會計監督トシ理事會之レヲ委嘱ス

第八條 主事ハ理事會之レヲ囑托ス

主事ハ一般ノ事務ヲ司ル

第五 會計

第九條 本會ノ諸經費ハ、寄附金及事業收益其他ヲ以テ之レヲ支辨ス

補 則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委嘱ス



9451-9

11

I-0720

國際思想研究會會計規則

第一條 本會ノ收入支出ハ規約第九條ノ規定ニ依ル

第二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

收入支出ノ事務ハ年度經過後三十日以内ニ完結スベシ

第三條 主事ハ毎會計年度開始前ニ翌年度ノ收支豫算書ヲ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

第四條 主事ハ毎月ノ收支計算書ヲ作製シ證據書類ノ原本又ハ副本ヲ添へ翌月十五日迄ニ常務理事ニ提出スベシ

第五條 主事ハ收支計算書及ヒ決算明細書ヲ翌年度五月二十日迄ニ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

主事ハ其際備品目錄ヲ添附スベシ

第六條 主事ハ其保管スル金員ノ保管及出納方法ニ關シテ豫メ常務理事及會計監督ノ認許ヲ受クベシ

第七條 一口五十圓以上ノ器具書籍類文房具等ノ購入ハ豫メ常務理事ノ承認ヲ受クベシ



9451-9

13

I-0720



9451-9

12

國際思想研究會會計規則

第一條 本會ノ收入支出ハ規約第九條ノ規定ニ依ル

第二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

收入支出ノ事務ハ年度經過後三十日以内ニ完結スベシ

第三條 主事ハ毎會計年度開始前ニ翌年度ノ收支豫算書ヲ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

第四條 主事ハ毎月ノ收支計算書ヲ作製シ證憑書類ノ原本又ハ副本ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ常務理事ニ提出スベシ

第五條 主事ハ收支計算書及ヒ決算明細書ヲ翌年度五月二十日迄ニ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

主事ハ其際備品目錄ヲ添附スベシ

第六條 主事ハ其保管スル金員ノ保管及出納方法ニ關シテ豫メ常務理事及會計監督ノ認許ヲ受クベシ

第七條 一口五十圓以上ノ器具書籍類文房具等ノ購入ハ豫メ常務理事ノ承認ヲ受クベシ



9451-9

15



9451-9

14

I-0720

國際思想研究會會計規則

第一條 本會ノ收入支出ハ規約第九條ノ規定ニ依ル

第二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

收入支出ノ事務ハ年度經過後三十日以内ニ完結スベシ

第三條 主事ハ毎會計年度開始前ニ翌年度ノ收支豫算書ヲ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

第四條 主事ハ毎月ノ收支計簿ヲ作製シ證據書類ノ原本又ハ副本ヲ添へ翌月十五日迄ニ常務理事ニ提出スベシ

第五條 主事ハ收支計算書及ヒ決算明細書ヲ翌年度五月二十日迄ニ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

主事ハ其際備品目錄ヲ添附スベシ

第六條 主事ハ其保管スル金員ノ保管及出納方法ニ關シテ豫メ常務理事及會計監督ノ認許ヲ受クベシ

第七條 一口五十圓以上ノ器具書籍類文房具等ノ購入ハ豫メ常務理事ノ承認ヲ受クベシ



9451-9

17

I-0720



9451-9

16

國際思想研究會會計規則

第一條 本會ノ收入支出ハ規約第九條ノ規定ニ依ル

第二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始まり翌年三月三十一日ニ終ル

收入支出ノ事務ハ年度經過後三十日以内ニ完結スベシ

第三條 主事ハ毎會計年度開始前ニ翌年度ノ收支豫算書ヲ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

第四條 主事ハ毎月ノ收支計算書ヲ作製シ證據書類ノ原本又ハ副本ヲ添へ翌月十五日迄ニ常務理事ニ提出スベシ

第五條 主事ハ收支計算書及ヒ決算明細書ヲ翌年度五月二十日迄ニ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

主事ハ其際備品目錄ヲ添附スベシ

第六條 主事ハ其保管スル金員ノ保管及出納方法ニ關シテ豫メ常務理事及會計監督ノ認許ヲ受クベシ

第七條 一口五十圓以上ノ器具書籍類文房具等ノ購入ハ豫メ常務理事ノ承認ヲ受クベシ



9451-9

19

I-0720



9451-9

18

反共産主義會議状況

昭和八年十月九日ヨリ三日間瑞西國ジュネーブ市ニ開催セラレタル反共産主義會議(アールベル協會主催ハ十五箇國ノ同種團體代表二十數名及幹部其他約十名出席シ先ツ會長及幹部ノ準備セル歐洲及極東ニ於ケル赤化運動ノ國際政局ニ及ホス影響ノ重要性ヲ述ヘタル報告ヲ議題トナシテ各方面ノ反共産主義運動カ莫斯科ニヨリ利用セラレントスル危険アルヲ認メ、斯ル事情ノ下ニアル反共産運動ノ立場及工業労働者間ニ於ケル該運動ノ手段方法等ニ関シテ意見ノ交換ヲ行ヒタル後反マルクス主義運動ノ益々緊要ナルヲ聲明スル丁ヲ決議セリ。

予ハ國際思想研究會設立趣意書及極東ニ於ケル共産黨ノ活動ニ関スル報告ヲ披露シ且本邦諸新聞ノ發表セル資料ニ依リ一兩年来ノ我國ニ於ケル共産黨運動及赤化防止ノ實況ヲ概説セルニ出席者一同吾人ノ協カヲ多トシ深厚ナル謝意ヲ表セリ。

以上稻垣代表報告要旨及御通報候也。

十月十八日

國際思想研究會

主事 花岡止郎



9451-9

21



9451-9

20

極秘

條約局長

歐米局長

第二局長

はて

國際思想研究會ノ設立ト日「ソ」間北京條約
第五條トノ關係

先般來本邦ニ於テハ平沼樞府副議長、水町樞府顧問官其ノ他ノ名士
カ參劃シ國際思想研究會ナルモノノ設立企圖セラレ居リ同會ノ目的
トスル所ハ我國ノ建國精神ト相容レサル第三インターナショナルノ
排除ニ在ル趣ナルカ同會ノ設立カ日「ソ」間北京條約第五條ノ所謂
「宣傳禁止」條項ニ對シ如何ナル關係ニ在ルヤニ付以下説述セント
ス

日「ソ」間北京條約第五條第一項ニ於テ規定セララルル締約國ノ行爲
及不行爲ハ左ノ四種ナリ

(一)互ニ平和及友好ノ關係ヲ維持スルコト

(二)自國ノ法權内ニ於テ自由ニ自國ノ生活ヲ律スル當然ナル國ノ權利
ヲ充分ニ尊重スルコト

(三)公然又ハ陰密ノ何等カノ行爲ニシテ苟モ締約國ノ一方ノ領域ノ何

外務省

8.7



9451-9

22

レカノ部分ニ於ケル秩序及安寧ヲ危殆ナラシムルコトアルヘキモ
ノヲ爲ササルコト

(四)締約國ノ爲何等カノ政府ノ任務ニ在ル一切ノ人及締約國ヨリ何等
カノ財的援助ヲ受クル一切ノ團體ヲシテ前記(三)ノ行爲ヲ爲サシメ
サルコト

今國際思想研究會ノ實體ヲ觀ルニ先ツ問題ト成ルヘキハ同會ノ行動
カ前記(三)ノ規定ニ抵觸スルヤ又同會ノ構成カ前記(四)ノ規定ニ該當ス
ルヤヲ検討スルニ在リ

抑々「締約國ノ一方ノ領域ノ何レカノ部分ニ於ケル秩序及安寧ヲ危
殆ナラシムルコトアルヘキ行爲」トハ何ヲ意味スルヤ右ハ日本國ニ
對シテハ赤化宣傳行爲ヲ意味シ「ソ」聯邦ニ對シテハ勞農政權ノ
倒行爲ヲ意味スルモノト解セサルヲ得ス然シテ右行爲ノ實體トハ該
目的ノ爲人ヲ派シテ活動セシメ、該目的ノ爲ニ活動スル者ニ何等カ
ノ援助ヲ與ヘ又ハ相手國語ヲ以テスル刊行物若ハ無線放送ニ依リ該

外務省



9451-9

23

I-0720

目的ノ爲ノ宣傳ヲ行フモノヲ指スヘシ他方國際思想研究會ノ目的ヲ
同會規約ニ基キ檢討スルニ同會ハ「我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推
弘ニ貢獻スル」爲「我建國ノ精神ト相容レサル第三インターナシオ
ナル其ノ他同種主義者ノ思想及活動ヲ調査檢討」スルモノニシテ主
眼トスル所ハ帝國内ニ於ケル此等危險思想ノ排除ニ在リ「國際正義
ノ推弘ニ貢獻スルコト」ハ消極的ノ表現ナルモ世界ニ於ケル第三イ
ンターナシオナル排撃運動ニ一脈ノ關聯ナシトセス然シテ第三イ
ンターナシオナル排撃ト勞農政權ノ打倒トノ間ニ重要ナル因果關係ア
ルヘキコトハ一般ニ通念トシテ容認セララル所ナルモ「ソ」側官憲
ハ之ニ組セスシテ常ニ第三インターナシオナルヲ目シテ政府ト無關
係ノ立場ニ在ルモノト爲シ又政府ヨリ何等財的援助ヲ受クルモノニ
非サルコトヲ指摘シ責任ヲ執ラス仍テ國際思想研究會カ假令第三イ
ンターナシオナルノ排除ニ付積極的ニ乗出スコトアリトスルモ何等
「ソ」聯政府ニ於テ異議ヲ挾ミ得サル筈ナリ何レニセヨ同會ノ主要

外務省



9451-9

24

目的ハ國內思想ノ清掃ニ在リ勞農政權ノ打倒ニ邁進スル底ノモノニ
非ス茲ニ於テカ同會ハ前記(三)ノ規定ニ抵觸スルモノニ非スト斷セサ
ルヲ得ス
轉シテ國際思想研究會ノ構成ヲ觀ルニ同會ノ目的カ些モ勞農政權ノ
打倒ヲ企圖セサル以上最早問題ト爲ス必要ナキモ前記(四)ノ規定ハ締
約國ノ義務トシテ(イ)「締約國ノ爲何等カノ政府ノ任務ニ在ル一切ノ
人」及(ロ)「締約國ヨリ何等カノ財的援助ヲ受クル一切ノ團體」ノ不
行爲ヲ要求シ居ルニ付些カ蛇足ノ感アルモ一應ノ研究ヲ加ヘントス
(イ)ニ關シ問題トナルハ「政府ノ任務」ノ解釋如何ニ在リ條約上及對
外的ニ用ヒラルル「政府」ナル語ハ國內的ニ謂ハルル内閣乃至ハ
一般行政官廳ノミヲ指スモノニ非スシテ元首ヲ含ムモノナルコト
通例ナリ此ノ際ハ要スルニ官吏及準官吏ノ一切ヲ指スヘシト思考
セラル樞密顧問官ノ如キ素ヨリ此ノ範圍ニ屬スヘシ然ラハ此等官
吏ノ如何ナル行爲カ回避セラルヘキモノナリヤ右ニ關シテハ北京

外務省



9451-9

25

I-0720

交渉當時芳澤「カラハン」間ニ議論アリ記録ニ依ルニ「ソ」側ノ
 言分ハ「勞農露國ニ在リテモ取締ノ法令アリテ官吏カ相手國ノ政
 體ヲ顛覆スルカ如キ陰謀ニ加擔シタル場合ニハ之ヲ取締ルノ方法
 在ルノミナラス如キ行爲ハ一般刑罰法規ノ見地ヨリ侮辱罪
 ヲ構成スヘク之等ハ條約ヲ以テ規定スル迄モナク取締ノ方法アル
 モノナリ然レ共官吏ナルノ故ヲ以テ相手國ノ國情制度等ニ對シ批
 評ヲ加フルコトヲモ禁スヘントスルハ到底不可能ナリ」ト云フニ
 在リ我方ニ於テモ右ニ對シ相手國ノ安寧秩序ヲ害スル程度ニ達セ
 サル行爲迄モ取締ラントスルモノニ非ス演説ノ如キモ目的ト結果
 トヲ綜合シテ判定セラルヘク個人的ニ談話シ又ハ書翰ヲ以テ意見
 ヲ述フルカ如キハ問題ニアラストセリ

(ロ)ニ關シテハ事實問題ナルニ付別段ノ疑義ナカルヘシ本件團體ハ其
 ノ構成カ一人ノ公務員ヲ含マストモ政府ノ財的援助アルノミニテ
 抵觸ヲ生スル次第ナリ

外務省



9451-9

26

以上述フル所ニ依リ國際思想研究會ハ其ノ事業目的前記(三)ノ規定ニ
 抵觸セス仍テ構成員ニ官吏ノ參劃スルモノアリト雖政府ハ條約上ノ
 義務違反ニ問ハルルコトナカルヘシ

是レハ事實ニ依リ政府ノ財的援助ヲ爲
 スルニ係ルモノトナシ

は(イ)

外務省



9451-9

27

I-0720

國際思想研究會設立趣意書

世界ノ秩序ハ東西ノ國家ガ正義人道ヲ重ンジ互ニ他ノ國體ヲ敬スルヲ以テ基調トス。然ルニ第三インターナショナルハ其唯物觀ニ依リテ全社會ヲ律シ宣傳、煽動、擾亂等諸有手段ヲ用ヒテ廣ク其主張ヲ強行セントス。是レ正義人道ニ悖リ獨リ我建國ノ精神ト相容レザルノミナラズ國際間ノ秩序ヲ紊スモノナリ。因リテ茲ニ國際思想研究會ヲ設立シ海外同趣旨ノ團體トモ連絡シテ第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻セントス。敢テ同憂諸賢ノ贊助ヲ冀フ。

昭和八年九月二十三日

發起人

國際思想研究會規約

第一 目的及事業

第一條 本會ハ正義人道ニ悖リ我建國ノ精神ト相容レサル第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻スルコトヲ目的トス

第二條 本會ハ右目的達成ノタメ在瑞西反第三インターナショナル國際協會其他同種ノ團體ト提携シテ概ネ次ノ事業ヲ行フ

(一) 第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及活動ノ研究調査

(二) 第三インターナショナル其他ニ對スル日本及各國ノ對策ニ關スル研究及調査

(三) 日本及各國ニ於ケル同種ノ研究機關ト調査及情報ノ交換
(四) 講演會ノ開催、調査及報告類ノ刊行

第二 名稱及事務所



9451-9

29



9451-9

28

I-0720

第三條 本會ハ國際思想研究會ト稱シ、事務所ヲ東京市麴町區永田町二丁目六十二番地ニ置ク

第三 會 員

第四條 本會ノ趣旨ニ贊同シ理事會ノ推薦ニ依リテ入會セル者ヲ以テ會員トス

會員ニシテ本會ノ趣旨ニ反スル者ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルヘシ

第四 役 員

第五條 本會ニ相談役若干名理事三名及主事一名ヲ置ク

第六條 理事ノ更迭ハ理事及相談役ノ合議ニ依ル

理事會ハ會務ヲ執行ス

理事會ハ常務理事一名ヲ互選ス

理事會ハ常務理事ヲシテ常務ヲ綜攬シ且本會ヲ代表セシム

第七條 相談役ハ理事會之レヲ委囑シ重要會務ノ相談ニ與ル

相談役中一人ヲ會計監督トシ理事會之レヲ委囑ス

第八條 主事ハ理事會之レヲ囑托ス

主事ハ一般ノ事務ヲ司ル

第五 會 計

第九條 本會ノ諸經費ハ、寄附金及事業收益其他ヲ以テ之レヲ支辨ス

補 則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委囑ス



9451-9

31



9451-9

30

I-0720

-3-

電信案

外務省

會後電報云一キニ付要旨 稲垣氏ヲ以テ
 発表セシメテ出未得レハ十月九日迄ニ
 向テ合フ様 高極東共産運動ニ関スル資
 料ニ付テ出未得レハ十月九日迄ニ向ニ合フ
 様電報スレニ



9451-9

34

-2-

電信案

外務省

貴使ニ御願 スル筈ナリ 尚在來赴人
 〆オーレル協會上聯絡方御配慮ナル様
 〆撃手クルフトナリ 貴使ニ放テ
 〆起シ小規模 ナカラニ十五日 発起人會式
 共産主義ノ思想協會ヲ設置スル運動
 先般來貴族院井田男爵中心トナリ反
 響ニ貴使発上田書記官宛私信ニ基キ



9451-9

33

I-0720

秘

花も
パ
ル
ン

電信寫

昭和8

原田外務大臣

第五七號

暗

ブラツセル 十月十七日 前着

在藤大使

在壽府 Antenne Internationale contre la trépléme Inocunatoire

會長「オーバール」 Aubert 比ヨリ本報宛書翰ヲ以テ來ル十月九

日ヨリ十一日迄壽府ニ開催ノ際定ナル同會第九回理事會ニテ横東ニ

於ケル「ボルシエビズム」ノ活動ノ問題モ名議ニ上ルヘク右ニ歸シ

日本側ノ意見ヲ承知スルコト有用ニ付日本人出席者一名指名アリ度

キ旨申越セリ依テ種々考究ノ結果在壽府開催ヲシテ不取敢續行ノ

名義ヲ以テ出席方取計ヘリ

此テハ本年五月本報宛在東京上田仙太郎を以テ宛送信ノ旨ニシテ
ニ於テモ此ノ組織に成立ノ概略熟セルヤノ趣ナル處右理事會ニ於テ
本件共ノ後ノ發展ノ検討ニ關シ稍重ヨリ何等カ披露スルノ事ヒニ至
テハ好都合ト存ス
尚其ノ俄會ニ稍重ヨリノ報告ノ資料トシテ本邦及滿洲國官局ノ委員
兼取締部及支那共産黨支部ニ關シ對策等ニ關シ報告資料アリハ、方
宛至急御送付相成度シ

S

9451-9

36

S

9451-9

35

I-0720

寫送先

會文人情條通歐亞細亞
計書事化報約商米細亞

大臣
次官

電信課長

1945.1.9

昭和8 一八七六九 暗
ブラッセル 廿三日後發
本省 九月廿四日前着 歐一

廣田外務大臣
第六四號
貴電第三五號末段ノ諸資料ハ壽府本使宛電報アリタシ
(反共產主義思想協會設置ノ件)

佐藤大使

外務省



9451-9

38

秘

佐藤大使來電

第三「インターナショナル」反對國際連同盟會長「オーベール」氏ヨリ書翰ヲ以テ十月九日ヨリ十一日迄壽府ニ開催セラルヘキ同會第九回理事會ニ於テハ極東方面ニ於ケル共產黨ノ活動問題モ審議セラルヘキニ付日本側ノ意見ヲ承知スル爲日本人出席者一名指名アリ度キ旨申越シタルヲ以テ不取敢在壽府稻垣ヲシテ聯絡員ノ名義ニテ出席セシムルコトトシタリ

就而ハ右理事會ニ於テ本邦ニ於ケル此種團體組織ニ關シ稻垣ヨリ何等情報提供シ得レハ好都合ナリト思考ス

尙本邦及滿洲國ニ於ケル共產黨取締振リ並ニ支那共產黨運動ニ對スル對策等ニ關スル資料ニシテ稻垣ヨリノ報告資料トナルモノアラハ至急御送付相成度シ

外務省



9451-9

37

I-0720

-2-

電 信 案

左ノ條件ヲ以テ同會トナシタルノ反第三「インタイナ
 乙ニナル」協會ト聯絡方作スル付
 由可然ノ取計アリ矣

(一) 分擔金ハ毎年二千圓ヲ越ハサルニト
 日支院ニ

(二) ナル協會ノ報告類ヲ翻譯權願布
 自由ヲ得ル事ニ認ムル

(三) プレミナルノ新指令就中極東ニ關スル
 又ニ注意

外 務 省



9451-9

40

I-0720

花岡

暗 平	電送第 昭和8年9月29日午後8時	號 1697	管主 歐米局長
第 二 號	件 五際思想研究会トナシタル 協會ト聯絡方關スル件	宛 壽府 佐藤大使	任主 歐米局長
電 信 案	井田磐楠男爵ヲ老ノ通	發 廣田大臣	昭 和 八 年 九 月 二 九 日 起 草
外 務 省	在日大使英往電第三五號ニ關シ 今般成立スル五際思想研究会常務理事	名 件 録 記	27.29



9451-9

39

在ジネーブ

佐藤大使宛

男爵井田磐楠 イワクス

今般成立を國際思想研究会ヲ代表シ左ノ條件ヲ以テ同會
 ト「オール」既ニ第ニイターナリナル協會トノ聯絡ヲ御交渉ヲ願フ
 (一) 分擔金 毎月 金ニ千圓ヲ越ハサル ト
 (二) 協會ノ調査・報告類 翻譯權
 (三) コミュニテルニ新指令執中 極東ニ関スルニ注意
 水井



9451-9

41

I-0720

電信寫

秘

手
引
シ
ス

24
5

昭和8

略

本
省
フ
ラ
ン
ス
ル

九月廿四日
前着

四

廣田外務大臣

佐藤大使

第六四號

貴電第三五號末段ノ諸資料ハ壽府本使宛電報アリタシ

(反共産主義思想協會設置ノ件)

S

9451-9

42

I-0720

寫送先

電信課長
大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會計

10. 7.

昭和8 一九五五一 暗 壽府
本省 十月五日 五日前發 歐一
後着

廣田外務大臣
第二六號
貴電第一二號ニ關シ
佐藤ヨリ

國際思想研究會加盟ノ條件ハ先方ニ於テ全部快諾セリ委細郵報、尙
同會「アドレス」電報アリ度シ

國名ニ於テ切實ニ
取極メテ文化

外務省



9451-9

43

I-0720

秘

東京
九月廿八日

電信寫

昭和8

暗 壽府
本省

九月廿八日後着

歐

廣田外務大臣

大使

第二五號

貴電第一二號ニ關シ

佐藤ヨリ

疊ニ申進メタル通り十月九日當地ニ於テ開カルヘキ汎第三「インタ
ーナショナル」會議ニハ稻垣ヲ個人ノ資格ニテ出席セシムヘキ旨「
オーベル」ニ通報シ置キタル處今回國際思想研究會成立セル趣ナル
ヲ以テ稻垣ヲ同會代表ノ資格ニテ參列セシメ壽府協會トノ聯絡ニ當
ラシムル方好都合ト存セラルルニ付井田男爵ノ意向御確カメノ上何
分ノ儀御回電アリタシ

S

9451-9

46

I-0720

電 信 案	電 送 第 17482 號	主 管 部 局 昭 和 8 年 10 月 6 日 發 9 時 0 分	主 任 部 局 昭 和 8 年 10 月 6 日 起 草	件 宛 壽 府 大 使
				件 發 廣 田 大 臣
外 務 省	以下別紙ノ通り	第一五號	反 和 三 イ ン タ ー ナ シ ョ ナ ル 會 議 ニ 於 テ ハ 不 滿 思 想 研 究 會 ノ 代 表 者 ニ 對 ス ル 件	名 件 録 記

電信課長

06039



9451-9

47

I-0720

國際思想研究會設立趣意書

世界ノ秩序ハ東西ノ國家ガ正義人道ヲ重ンジ互ニ他ノ國體ヲ敬スルヲ以テ基調トス。然ルニ第三インターナショナルハ其唯物觀ニ依リテ全社會ヲ律シ宣傳、煽動、擾亂等諸有手段ヲ用ヒテ廣ク其主張ヲ強行セントス。是レ正義人道ニ悖リ獨リ我建國ノ精神ト相容レザルノミナラズ國際間ノ秩序ヲ紊スモノナリ。

因リテ茲ニ國際思想研究會ヲ設立シ海外同趣旨ノ團體トモ連絡シテ第三インターナショナルナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻セントス。敢テ同憂諸賢ノ贊助ヲ冀フ。

昭和八年九月二十三日

發起人

男壽平沼麟一印 希地濠

水町繁盛六 男壽井田繁楠

子壽田部長景 花田止印



9451-9

48

I-0720

国際思想研究会

Kokusai-Shiso-
Kenkyukai.

[K-S-K]

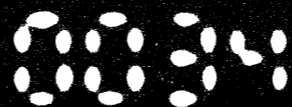
(Association d'Etudes
internationales du
mouvement des
Través Sociales.)



9451-9

49

I-0720



在ジュネーブ

佐藤大使宛

井田磐楠

貴電、頃、稲垣氏、十日、日内、催、理事會、於、此、
國際思想研究會、代表者、名、一、ヲ、依頼、ス、今、氏、ハ、以下、
會、設立、趣意、ヲ、紹介、セ、シ、タ、シ

世界ノ秩序ハ東西ノ國家ガ正義人道ヲ重ンジ互ニ他ノ國體ヲ敬スル
ヲ以テ基調トス。然ルニ第三インターナショナルハ其唯物觀ニ依リ
テ全社會ヲ律シ宣傳、煽動、擾亂等諸有手段ヲ用ヒテ廣ク其主張ヲ
強行セントス。是レ正義人道ニ悖リ獨リ我建國ノ精神ト相容レザル
ノミナラズ國際間ノ秩序ヲ紊スモノナリ。
因リテ茲ニ國際思想研究會ヲ設立シ海外同趣旨ノ團體トモ連絡シテ
第三インターナショナルナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査検討
シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻セントス。敢テ同憂
諸賢ノ贊助ヲ冀フ。

昭和八年九月二十三日

發起人

田代平沼 赤池 濃
水町 繁 大 岩 井 田 磐 楠
子 野 岡 部 長 景 花 岡 止 郎

右趣意書ハ當方、於、テ、モ、十、月、九、日、發、表、致、ス、シ



9451-9



9451-9

51

50

會名譯語 Société d'études internationale contre les
idées malsaines (les idées radicales)

秘

電信寫

昭和8

暗 壽府
本省

九月廿八日 後發

歐

廣田外務大臣

大使

第二五號

貴電第一二號ニ關シ

佐藤ヨリ

暴ニ申進メタル通り十月九日當地ニ於テ開カルヘキ汎第三「イン
」ナシヨナル」會議ニハ稻垣ヲ個人ノ資格ニテ出席セシムヘキ旨
オーベル」ニ通報シ置キタル處今回國際思想研究會成立セル趣ナル
ヲ以テ稻垣ヲ同會代表ノ資格ニテ參列セシメ壽府協會トノ聯絡ニ當
ラシムル方好都合ト存セラルルニ付井田男爵ノ意向御確カメノ上
分ノ僣御回電アリタシ

S

9451-9

52

I-0720

秘

電信寫

昭和8

暗

壽府
本省

九月廿八日
午後着

歌

廣田外務大臣

大使

第二五號

貴電第一二號ニ關シ

佐藤ヨリ

粵ニ申進メタル通り十月九日當地ニ於テ開カルヘキ汎第三「イン」
「ナシヨナル」會議ニハ稻垣ヲ個人ノ資格ニテ出席セシムヘキ旨ハ
「オーベル」ニ通報シ置キタル處今回國際思想研究會成立セル趣ナル
ヲ以テ稻垣ヲ同會代表ノ資格ニテ參列セシメ壽府協會トノ聯絡ニ當
ラシムル方好都合ト存セララルルニ付井田男爵ノ意向御確カメノ上何
分ノ體御回電アリタシ

I-0720

電 信 案	極 楽 之 破 り の 共 産 党 一 任 勤 へ 大 任 オ ー ハ シ レ ル	村 田 男 子 大 角	フ ラ ツ シ レ ル 宛 姓 更 不 三 五 号 未 段 二 角 シ	暗 平 路 佐 藤 へ	電送第	17480	號	管主
					昭和	8年10月6日	後	時0分
外 務 省				第 一 三 號	件	宛	香 香	任主
					勤 三 角 の 情 報	極 楽 之 破 り の 共 産 党 一 任 勤 へ 大 任 オ ー ハ シ レ ル	佐 藤 大 使	電 信 課 長 任 主 香 香 西
					名 件 録 記	發	村 田 大 角	昭 和 年 月 日 起 草

06035



9451-9

53

I-0720

電
信
案

外
務
省

外人モロコシ合資會社加納赴境セムカ
リキ

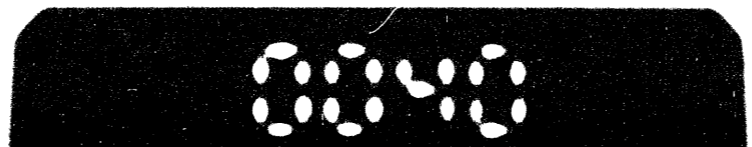
(原議用紙乙圖納)



9451-9

56

I-0720



(電信安未)

在シエネーブ

稲垣代表

井田常務理事

極東に於ける共産党活動情報

大体「ヨールベル」協會本年一月々報調査の如き行動に出で、日本に於ても其黨幹部の檢舉に拘はらず種々策動を試み居るも當局の取締と一般の時局覺醒^{の影響}に依り~~取返~~河上佐野等領袖中轉向の意を表せる者^もも潜在的に進行中^{あり}運動を根絶するには尚ほ多大の効力を要するべし。



9451-9

57

向あり今日は江西省(首都瑞金)を中心とするも將來トルキスタニ其他ソウエト領接壤地方に及ぶに於ては其勢力を強化すべし。蔣介石名義にソウエトと妥協すべしとの説は眞偽断定し難^く共匪掃討の南京政府に難事業なるは疑なく、又た従来の支那軍閥間の戦と異り共産軍の^戦は軍事以外政治的、経済的等諸有破壊政策が施され一層深刻である。



9451-9

58

尚ほ先般の上海に於ける反我大會は不成立となり、我軍はこれに同情せる会合も氣配なく且代表者の上海に赴く者もなかつた。以上

第三「インターナショナル」對抗國際的協調

(反共產主義國際的協調)

常設事務所 22 rue de la Corraiterie

Genève



9451-9

65

反「ボルシエビズム」ノ中心事務所ヲ日本ニ設置スル
意見書

第一理由

一九三三年一月二月ノ文書中「亞細亞及亞弗利加ノ赤化ヲ目的トセ
ル蘇聯邦政府及「コミンテルン」ノ活動ニ關スル本事務所ノ研究ハ
「モスコ」カ極東赤化ヲ重要視シ右赤化運動カ周密且執拗ニ計劃
及實行セラレ居ル事實竝ニ之ニ關スル「コミンテルン」最近ノ指令
等ヲ公ニセリ

右研究ハ日本ニ反「ボルシエビズム」ノ重要中心事務所設置ノ必要
ナルコトヲ示スモノニシテ又東京ニ於テ「ボルシエビズム」ノ脅威
アルコトハ周知ノ事實ナリ

日本ハ一方蘇聯邦ト直面シ他方混沌トシテ既ニ六千萬乃至八千萬ノ
人口カ蘇聯邦化セル支那ニ臨ミ極東ニ於テ孤立ノ状態ニアリ且日本
ニ於テモ其法規ノ嚴重ナルニ拘ラス赤化宣傳ノ活潑ナルヲ見ル



9451-9

66

I-0720

第三「コミンテルン」ニ關スル一般情報

日本ニ於テハ「モスコ」其他ノ「コミンテルン」中心地ニテ用意セラレタル赤化ノ計劃決議實行等ヲ知ルハ困難ナリ右ニ關スル文書ハ露、獨、佛、英語等ニテ記載セラレ之ヲ得ル事容易ナラス且反帝國主義聯合、反戰委員會ノ如キ「ボルシエビズム」ノ國際的中心亦歐洲ニアリ

此等ニ關スル迅速豊富ナル情報ハ本事務所ニアリ本事務所ハ創設以等八年、經驗ト文書トヲ收メ他ニ比類ナキ機關トナレリ

第三日本ニ於ケル中心事務所ノ事務

右中心事務所ハ其活動ニ入ル前、世界「ボルシエビズム」ノ組織、主義、方策等ヲ完全ニ知ルヲ要スル處英、佛語ニ依ル本事務所ノ文書及刊行物ハ之ヲ容易ナラシム

本事務所トノ聯絡ニ依リ新事件ヲ常ニ把握スルヲ得ヘシ、次ニ先ツ右中心事務所ハ前記一九三三年一月及二月ノ文書ヲ研究スルヲ要ス

理由上記ノ如クナルヲ以テ日本ニ於ケル中心事務所ノ主要事業次ノ如シ

(1) 情報機關ノ設立 右機關ハ日本及其附近太平洋地方ニ於ケル「コミンテルン」及蘇聯邦政府ノ機關ヲ發見シ、赤化及革命ノ爲ニ如何ナル手段方法ヲ用フルカヲ突止メ且其活動竝ニ外國（ニ於ケル同志）及赤化新聞トノ關係ヲ出來得ル限り迅速把握スルヲ目的トス 右ハ國家ノ特高警察ト何等關係ナク唯多數情報蒐集ヲ目的トス 此等情報ハ先ツ検査（*contrôle, clarifiée et simplifiée*）セラレ次テ左ノ如キ方法ニ依リテ利用セラレ然ル後書庫ニ分類保管セラレヘシ

(2) 情報利用（常設事務所ヨリノ情報ヲ含ム）ノ手順次ノ如シ

- A、關係官廳 即内務、警察、陸、海軍、外務（特ニ日本外交官領事官ヘノ轉達）諸省ヘノ配布
- B、新聞、講演會、活動寫眞ニ依ル反對宣傳ノ爲竝ニ中心事務所



9451-9

68



9451-9

67

I-0720

ヨリノ出版物ノ爲ニ利用ス此等ハ蘇聯邦竝「コミンテルン」ノ一般政策、蘇聯邦ノ貿易、對外「クレヂット」、政治經濟狀況竝ニ勞働者、農民、智識階級ノ生活狀態等ニ關スル情報ニシテ主トシテ反對宣傳ニ利用セラレ

此種情報ノ利用ハ中心事務所カ大臣、官廳首腦者、議員、新聞記者、諸講演會ノ主催者等有ユル人物ト直接聯絡ヲ取り之ニ情報ヲ供給シ初メテ有效トナル中心事務所ハ政治、社會ノ諸問題ヲ仔細ニ注視シ或場合ニハ其情報ニ依リ直接間接ニ行動ヲ起シ得サルヘカラス其情報ヲ有效ニ利用スル爲ニハ中心事務所ハ有ユル場合ヲ均シク利用スヘク例ヘハ若シ對手カ宣傳文書ヲ配布シテ攻撃セハ直ニ之ニ應酬シ若シ有利ナル重要情報アル時ハ之ヲ直ニ出來得ル限り廣ク公ニシ攻勢ニ出ツヘク若シ又新聞、議會等ニ於テ論争アル場合ニハ必要文書ヲ反赤化主義者側ニ提供スルカ如シ

- (3) 中心事務所ハ重要人物ト關係ヲ結ビ最大多數ヲ反「ボルシエ」ビスマ「化」セシム即單ニ彼等ヲシテ反「ボルシエ」ビスト「ナリト云ハシムルニ止マラス右撲滅運動ニ參加スル事其義務ナルヲ悟ラシム
- (4) 中心事務所ハ諸外國ノ取レル赤化運動撲滅（特ニ立法ニ依ル）手段ヲ綜合スル書庫ヲ作成ス
- (5) 中心事務所ハ「コミンテルン」カ其行動ヲ隱蔽スル補助機關ニ特別ノ注意ヲ拂フヘシ
- (6) 中心事務所ハ船内及港内ニ於テ嚴格ナル統制ト有效ナル反對宣傳トヲ組織スル爲ニ日本及外國船舶會社ト聯絡ヲ開始スヘシ
- (7) 中心事務所ハ露國カ「ボルシエ」ビスマ「支配下ニアル限リ世界ハ現在ノ政治經濟的困難ヨリ脱スルヲ得サルヘキ事ヲ證スヘシ又「ボルシエ」ビク「手先ノ國際監督ノ必要ト「ボルシエ」ビスマ」及蘇聯邦反對ノ國際的政策ノ必要トヲ明ニスヘシ
- (8) 中心事務所ハ日本及日本近傍ノ太平洋地方ニ於ケル「コミンテル



9451-9

70



9451-9

69

I-0720

ン」ノ活動ニ關スル情報ヲ壽府常設事務所ニ通牒シ右常設事務所ヨリ此等ヲ歐米諸國ニ通牒スルヲ得シムヘシ

第四

中心事務所ハ日本ニ於ケル反「ボルシ」^エ「ピスム」運動ノ不斷ノ原動力タルヲ要ス事務所ノ指揮人重要人物ニシテ活動的且責任感及決斷力アリ廣キ教養ト該博ナル智識ヲ有シ「ボルシ」^エ「ピスム」ノ問題ヲ理解シ得ル人物ニ委スルヲ要ス而シテ「ボルシ」^エ「ピスム」運動ハ人類活動ノ總テノ領域ニ關係シ且右運動ハ非常ナル能力ト執拗サヲ以テ行ハルルカ故ニ之ニ對抗スルハ一種ノ戰爭ナレハ其大事業ニ全ク専心スル指揮者トシテ行動スルヲ要ス事務所指揮者及其事務ニ携ハル者ニ財政上ノ便宜ヲ與ヘ事務費トハ別ニ電報ノ發信、旅行、又ハ壽府常設事務所費用ノ分擔金ノ如キ特別支出ヲ許可スヘシ壽府常設事務所ハ上記諸點ヲ以テ本事業ノ遂行ニ必要ナルモノト思考ス危險ハ重大且廣キカ故ニ姑息ナル手段ヲトル可ラス又他方常設事務所ハ

「コミンテルン」ノ一般行動ニ關シ必要ナル情報竝ニ日本及太平洋地方ニ關スル特殊情報ヲ常ニ供給スルカ故ニ右ハ大ナル經濟トナルヘシ

中心事務所豫算

- 一 傳給手當
- 二 旅費
- 三 情報ノ複製竝ニ發送
- 四 共產主義的出版物蒐集費ト新聞切抜ニ對スル豫約
- 五 情報機關ノ費用
- 六 事務費(家賃等)
- 七 臨時費
- 八 壽府常設事務所分擔金

(終り)



9451-9

72



9451-9

71

I-0720

國際思想研究會規約（案）

第一 目的及事業

第一條 本會ハ我國体及國際正義ト相容レサル第三インターナシヨナル其他ノ主張及活動ヲ檢討シ以テ我國体ノ擁護並ニ國際秩序ノ増進ニ貢獻スル事ヲ目的トス

第二條 右目的ノタメ本會ハ在瑞西反第三インターナシヨナル國際協會及同種ノ團體ト提携シテ概ネ左ノ事業ヲ行フ

(一) 第三インターナシヨナル其他ノ主張及運動ノ研究及調査

(二) 第三インターナシヨナル其他ニ對スル各國ノ對策ニ關スル研究及調査

(三) 第三インターナシヨナル其他ニ對スル日本ノ對策ノ研究及調査

(四) 日本及各國ニ於ケル同種ノ研究機關ト調査及情報ノ交換

(五) 右研究及調査ニ關スル内外權威者ノ意見ノ聽取

(六) 講演會ノ開催

(七) 調査及報告類ノ刊行

第二 名稱及事務所

第三條 本會ハ國際思想研究會ト稱ス

第四條 本會ハ事務所ヲ東京市

(電話 番)ニ置ク

第五條 必要ナル地方ニハ支部ヲ設クルコトヲ得

第三 會員

第六條 本會ノ趣旨ニ贊同シ理事會ノ推薦ニ依リテ入會セル者ヲ以テ會員トス

會員ニシテ本會ノ趣旨ニ反スル者ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スル事アルベシ

第四 役員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

(一) 會長 一名

9451-9

74

9451-9

73

I-0720

(二) 理事 八名以内
會長不在ノ際ハ常任理事之レヲ代理ス

理事ハ互選ニ依リ常任理事ヲ設クルコトヲ得

(三) 相談役 若干名

(四) 監事 二名

(五) 主事 一名

第八條 (一) 會長ハ相談役ノ同意ヲ經テ理事會之レヲ推舉ス會長ハ會務ヲ綜攬シ且本會ヲ代表ス

(二) 理事ハ會長之レヲ委囑シ會務執行ノ任ニ當ル

(三) 相談役ハ理事會ノ推薦ニ基キ會長之レヲ委囑ス

(四) 監事ハ相談役中ヨリ會長之レヲ委囑シ會計監督ノ任ニ當ル

第九條 (五) 主事ハ理事會ノ推薦ニ基キ會長之レヲ囑托シ事務ヲ司ル
會長、理事及監事ノ任期ハ二年トシ留任ヲ妨ケス

第五 集會

第十條 會長ハ隨時理事會ノ議ヲ經テ會員總會及相談役會ヲ召集ス

第六 會計

第十一條 本會ノ請經費ハ寄附金、事業收益其他ノ收納金ヲ以テ之レヲ支辨ス

補則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委囑ス



9451-9

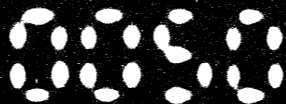
76



9451-9

75

I-0720



訂正済

國際思想研究會規約(案)

第一 目的及事業

第一條 本會ハ我國體及國際正義ト相容レサル第三インターナショナル
ル其他ノ主張及活動ヲ檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際秩序ノ増
進ニ貢獻スル事ヲ目的トス

第二條 本會ハ右目的ノ達成ニ在瑞西反第三インターナショナル國際
協會及同種ノ團體ト提携シテ概ネ次ノ事業ヲ行フ

(一) 第三インターナショナル其他ノ主張及運動ノ研究及調査

(二) 第三インターナショナル其他ニ對スル日本及各國ノ對策ニ關ス
ル研究及調査

(三) 日本及各國ニ於ケル同種ノ研究機關ト調査及情報ノ交換

(四) 講演會ノ開催、調査及報告類ノ刊行

第二 名稱及事務所

第三條 本會ハ國際思想研究會ト稱シ、事務所ヲ東京市

支那銀行

第三 會員

第四條 本會ノ趣旨ニ贊同シ理事會ノ推薦ニ依リテ入會セル者ヲ以
テ會員トス

會員ニシテ本會ノ趣旨ニ反スル者ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スル
事アルヘシ

第四 役員

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク(暫定的)

(一) 理事 若干名

(二) 相談役 若干名

(三) 主事 一名

第六條

(一) 理事長ハ相談役ノ同意ヲ經テ理事會之レヲ推舉ス
理事長ハ會務ヲ綜攬シ且本會ヲ代表ス



9451-9

78



9451-9

77

I-0720

- (二) 理事ノ更迭ハ理事會及相談役會ノ協議ニ依ル
理事ハ會務執行ノ任ニ當ル
- (三) 相談役ハ理事會ノ推薦ニ基キ理事長之レヲ委嘱ス
相談役ハ會務ノ相談ニ與リ内一人會計監督ス任ニ當ル
- (四) 主事ハ理事會ノ推薦ニ基キ理事長之レヲ囑托ス
主事ハ一般ノ事務ヲ司ル

第七條 理事及相談役ノ任期ハ概ネ二年トシ留任ヲ妨ケス

第五 會計

第八條 本會ノ諸經費ハ會費、寄附金及事業收益其他ヲ以テ之レヲ
支辨ス

第九條 會費ハ毎生金貳圓、一時ニ金拾圓以上寄附セル會員ヨ
以テ會費ヲ徵收セシム

補則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委嘱ス

金額	項目	説明
(一) 金五十圓也	文房具諸品費	綴込、スクラップ帳、筆墨紙類
(二) 金三百圓也	備付圖書費	圖書、辭書、地圖、統計等
(三) 金百圓也	印刷物費	趣意書、規約其他
(四) 金五十圓也	郵便費	右發送及會員勸誘等
(五) 金三百圓也	家具費	机、椅子、書棚、時計其他
(六) 金百圓也	寫字機具費	歐文タイプライター一台、日本文寫字機
(七) 金百圓也	發起人會費	會成立ノ際發起人及諸關係者會合相談會費
(八) 金五十圓也	雜費	

計 金千●百五拾圓也

外ニ電話購入ノ場合ニハ金六百圓位ヲ要ス



9451-9

80



9451-9

79

I-0720

維持費 (月額) 金額 項目 説明

(一) 金五百二十圓也	翻譯係給料	英佛獨語各八十圓宛 月額約四百十六圓宛
(二) 金八十圓也	外出翻譯料	英佛獨譯文語翻譯 手不足、際、外部依頼
(三) 金百圓也	主事給料	一人 (月額百圓)
(四) 金六十圓也	書記及會計係	一人 (月額五十圓)
(五) 金三十圓也	會計及庶務係	一人 (日當五十圓)
(六) 金三十圓也	通信及郵便費	主、シ、郵便費、オ、モ、電話維持費、 俾像、(月額二十五圓)
(七) 金百圓也	印刷費	木、柴、向、ボ、シ、ト、シ、ト、千、部、官、衙、及、會、員、 備、單、行、本、(月額八十圓)
(八) 金三十圓也	文房具費	筆、墨、紙、其、他、(月額二十五圓)
(九) 金五十圓也	車馬費	機、器、運、送、其、他、ノ、出、張
(十) 金五十圓也	圖書費	每、月、購、入、新、著、雜、誌 約、三、十、四、圓

(一) 金百圓也	研究費	特ニ日本情報研究及講演會費用 (月額約十圓)
(二) 金三十圓也	家賃	本年町所在社會局外局一室借入 (月額五十圓)
(三) 金四十圓也	雜費	
計	金百圓也	

萬九百四十 (月額金九百十圓余)

反第三インターナショナル國際協調
(創立五週年記念トシテ一九二九年刊行)

目次

緒言

反第三インターナショナル國際協調

存在ノ理由及基礎

一般プロパグンダ

一般方略

協調ノ組織

常設事務局ノ國際的行動

國際情報任務

各國政府ニ關スル行動

國際聯盟

國際設備ト教會

プロパグンダニ對スル經濟的企業ノ防禦
ホリシエビスムニ對スル殖民地ノ防禦
青年

智識階級(方面)

露西亞人ノ解放

協調ト平和

各國ノ本部

一般

警察

軍隊

團體(組織)ト愛國的協會

工業ト運輸ト通商ト農業

智識階級(方面)ト青年

殖民地



9451-9

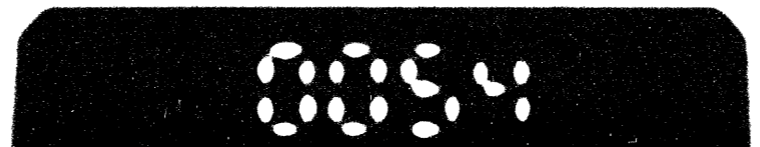
84



9451-9

83

I-0720



議會
協調ノ友
結言

緒言

ソウエート政府ハ全世界ノ共產黨ト共ニ一九二七年秋其ノ露亞西ニ於ケル政權獲得十年ヲ舉行シタカ彼等ハ其ノ赤イ儀式ニ參列シタ外交團ヲ見渡シナカラソウエート社會主義共和國ニオンノ威嚴ト存續カ過去十年間ニ確保セラレタト聲明セルハ皮肉ナシテハナイ。ソウエート外交ハ成功シテ居ルカ國內ニ於ケルマルキシムノ實驗ハ不成蹟テアル。一國營工業^{不振}餓餓一物資不足一貿易經營不成蹟一生活騰貴等テ不平ノ聲ハ全國ニ漲リ時々反亂カ起リ政府ハ不安ヲ感シテ居ルカ國民ハ武器ヲ有セス世界ノ情報ヲ知ラス革命ノ専門家カラ成ル政府ヲ倒ス力ハナイ。然シ無理ナ政治ハ永續シナイ、例ヘハ宗教ヲ迫害シテモ國民ハ信仰ヲ失ハナイ。レーニンノ教ニ從ヘハソウエート政權ヲ維持スルニハ世界革命ハ必要テアル、ソコテ一九二八年夏ノコミンテルン第六回會議ハ世界革命ノ方略ヲ議シテ居ル。今ヤ世界ハ改造運動トコミンテルンノ破壞運動トノ間ニ陔マレテ居



9451-9

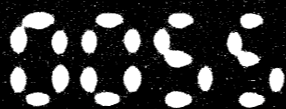
86



9451-9

85

I-0720



ル諱テアル。世人ハ比較的此ノ危険ニ無感覺テアルカ過去五ケ年間ノ吾人ノ努力ハ世人ノ覺醒ヲ促シタルヲ信スルト共ニ吾人ノ道カ成功ニ進ミツツアルヲ信スルノテアル。



反第三インターナショナル國際協調

存在ノ理由及基礎

- (一) 邦リシエビスム問題ニナルト國際聯盟ハ實力ナキコト。
 - (二) 右ノ問題ニ關シテハ大國モ頼ナキコト。
 - (三) 輿論ノ怠緩、即チ他ノ困難ヲ聞キ倦ミ輿論カ癱痺シテ文明ノ擁護ニサヘ無關心ニナツテ居ルコト
- 一言ニシテ云ヘハ斯ノ重要問題ニ對シ指導階級ガ力ヲ注カナイ爲ニ危険ヲ招來シテ居ル事。之レ即チ本協調存在ノ理由テアル。
- 一九二四年三月セオドル。オーベル氏及其ノ友人四名ハジュネーブニ臨時事務局ヲ組織シタルカ、其ノ前年十一月日コトガワカル。一九二四年六月ニ至リ臨時事務局ノ努力效果ガ現ハレテ十ヶ國カラ代表者カ巴里ニ集マリ本協調ヲ組織シタ。同集會ノ採決セル決議ハ實ニ左



ノ如クテアル。

本集會ハ

近代文明及各國ノ制度ガ國際的ニ破壞ヲ目的トスル陰謀團體ノ不
斷ノ襲撃ヲ受ケツツアル事實ヲ考慮シ
第三インターナショナルハ右陰謀團ノ先達タルニ鑑ミ
國際協調ヲ組織シ以テ世界到ル處ニ於テ彼等ト戰ヒ家族、財産及
國家ヲ防禦センコトヲ決議ス。



一般プログラム

- (一) 各國ノ領域内ニ於ケルボリスニビ守運動取締。
- (二) 新ニソウエー卜國ヲ承認スルコトニ對スル反對。
- (三) 現存外交關係ノ斷絶。右斷絶ハソウエー卜政府カコミンテルンノ
假面ノ下ニ各國ノ領土内ニ於テ行フ國際法違反ノ行爲ヲ理由トス
ル。
- (四) 對ボリスエビスムノ危險防止ノタメ各國政府間ニ協調スルコト。
- (五) コミンテルンヲ撲滅スルコト及ビ露西亞國民ヲシテコミンテルン
ト同体ヲ爲スソウエー卜政府ヲ倒シ之レニ代ユルニ法律ヲ尊重シ
且露西亞復興ノ能力アル政府ヲ樹立センムル事。

一般方略

コミンテルンハ明カニ現社會ト兩立シ得ザル目的ヲ追フモノナルヲ
以テ、之レカタメ特別戰闘組織ノ必要ヲ感シ莫斯科ニ有力ナル參謀
本部ヲ組織シ、又タ全世界ニ亘リテ多數ノ有給隱密ヲ活動セシメテ



居ル。彼ハ全世界ノ七分ノ一ニ當ル露西亞ヲ侵有スル結果トシテ必要ナル資力ヲ有シテ居ル。

本協調ハ近代文明ヲ防禦シ、反ボリシエビシ戦争ノ有利ナル轉向ヲ期待スルモ餘リ積極的態度ニ出サル方面ニ活動スル。從テ現在潛在的狀態ニアル政府及個人ノ反ボリシエビシ勢力ヲ動員シ活動セシメントスルモノテアル。若シ其ノ動員完成セハボリシエビシノ勢力ニ對シテ優勢ヲ占ムヘキコト明カテアル。之レ實ニ本協調ノ資力ガソレト政府及コミンテルンノ活動手段ニ比シテ甚シク不釣合ナルニ拘ハラヌ本協調ノ事業ノ實現ヲ可能ナラシムルノテアル。

ボリシエビシムノ危険ハ之レニ對スル十分ナル監視ヲ怠リ又ハ必要缺クヘカラサル防禦及彈壓手段ヲ講セサルヨリ起ルモノテアル。

協調ノ組織

前述ノ如ク反ボリシエビシ勢力ハ未ダ潜伏状態ニアルヲ以テ本協調創立者ハ各國ニ大團體ヲ設立スルコトヲ目標トセス、活動的ナル反

ボリシエビシ諸協會及個人ニ呼掛ケ該協會又ハ個人ヲシテ同國ノ體內ニ活動ニ富メル反ボリシエビシ血脈ヲ送ル心臟タラシメントスルニ努メタ。之レニ依リテ現社會ノ各組織体（政府、協會、其他各團體等）ハボリシエビシムノ活動ヲ袖手傍觀スルノ危険ヲ語り積極的手段ヲ取ルニ至ルテアラウ。

次ニ協調創立者ノ準則トセルハ協調内各分子ニ廣キ獨立ヲ認メ之ニ依リ各分子ヲシテ活力ト特長ヲ發揮セシメ協調全体ノ活動ニ彈力性ヲ與メントシタ事テアル。之レ協調ノ名アル所以デアアル。

本協調ハ創立以來五年間絶エス且ツ迅速ニ發展シ相互間ノ結束モ益々堅キヲ加ヘツツアリ。實ヲ云ヘハ協調ノ遂行シタ反ボリシエビシ行動ニハ概シテ協調ノ名ヲ出サス又タ公表モセス事務局自ラ慎重ニ之ヲ行ヒ又ハ各國本部若クハ世界各地ノ聯絡係及同志ニ依リテ行ハレタノテアル。

本協調ハ依然彈力性ヲ保チ、世界大戰ノ際敵味方ニ分レタル國々サ



ヘモ包容シテ各國ノ愛國者ヲ共同戦線ニ立タシメントスルニハ形式主義ヲ排シ各分子ノ意思ヲ尊重スル必要アリトノ創立者ノ見解ノ正シキヲ示シテ居ル。各國間ノ聯絡ハ共同ノ目的ヲ爲メニ保タレテ來テ居ル、即チ第三インターナショナル及ソウヴェートト戦ハントスル事ニ依テ立派ニ保タレテ居ルノデアアル。

反察リシニ此等動員ヲナスカ爲メニ、本協調ノ有スル機關ハ小サクハアルガ常ニ進歩シ常ニ活動シ各部分ハ常ニ接觸ヲ保ツテ居ル、其組織ハ左ノ通りデアアル

イ、協調常設事務局 (*The Permanent Bureau of the Entente*)、組織

織、聯絡、報告及行動ノ國際中心ヲナス

ロ、國際殖民地事務局 (*The International Colonial Bureau*)

自治的ナルモ前者ト聯絡ス

ハ、各國本部(協調ノ) (*The national centres of the Entente*)

ニ、友援者(個人又ハ團體) (*The Friends of the Entente*)



9451-9

93

毎年一回常設事務局及各國本部代表者ヨリ成ル國際協調理事會ヲ開催ス。



9451-9

94

I-0720

常設事務局ノ國際的行動

常設事務局ハジユネーヴニ在リ本協調ノ活動ノ原動力ヲ爲ス

國際情報任務

情報任務ハ本協調ノ當初ヨリ着手セル所ニシテ其ノ後非常ニ進歩シ各國本部及連絡係ヨリ多數ノ情報ヲ得ルト共ニ常ニ新聞紙其他ソヴエルト及コミンテルンノ刊行物ニ注意シ、尙ホボリシエビスムニ關シ露國外ニ於テ出版セラルル各種ノ著述ヲ參考トナシ、幾多ノ綴込ヲ作り之レヲ各國及各件別ニ分類シ其要領ヲ英佛語月報トシテ發表ス。又之レヲ各國政府及通信員ニ送ル。

各國政府ニ關スル行動

情報ノ價值ハ種々ノ行動ノ基礎トナシ得ル點ニアルヲ以テ事務局ハ時宜ニ從ツテ特別刊行物ヲ發行ス。例ヘハ

(イ) 『ボリシエゼスムノ恐ロシキ記録』

ハヴオロフスキ―事件ニ關スルオーベル氏ノ辯護ニテ一九二

四年英國撰學ニ利用セラレ一萬部以上賣レタ。

(ロ) 『メモランドウム』

ハ一九二五年常設事務局ノ編纂シタルモノニテ國際協調理事會ニテ採決サレテ各國政府ニ送ラレタルモノニテ、各國ノ治安、國際平和及道德並法律ノ原則ニ對スルボリシエビスムノ危険ヲ説キ其ノ防止ノ爲メ政府間ニ協定ヲ結フヘキコトヲ勸告シタルガ警察方面ニ此趣旨ノ協定採用サル。

(ハ) 第二 『メモランドウム』

ハ一九二六年十二月一對ボリシエビスム鬭争ニ關スル現在ノ問題ト題スル第二メモランドウムヲ各國政府ニ送り國交斷絶ヲ勸メタ。英國政府ハ一九二七年々頭特別會議テ之ヲ研究シタ。

(ニ) 第三 『メモランドウム』

ハワルシヤワニ於テ波蘭駐劄公使ボイエコフガ暗殺サレタル



9451-9

96



9451-9

95

後ソヴエート側カ人質二十人ヲ殺セルヲ動機トシテテロルヲ
各國政府ニ注意シタモノデアル。

(ホ) 第四『、、、』

ハ『ソヴエート現政策』ヲ説キ一九二七年十一月和牙、反第
三イン法律會議決議ヲ各國政府ニ送ル。

(ニ) 第五『、、、』

軍縮會議ヲ前ニ一九二九年二月「軍縮問題ノ一局面、プロレ
タリアート戦争」ヲ各國政府ニ説キ、ソヴエート政府ノ二元
政策ヲ語ル。

(ト) 反ボリシエビキ袖珍書

一九二六年第一版、翌年再版

(チ) 各國ニ於ケル革命ニ働クソヴエート組織憲章

一九二八年英佛語各一萬部版行。

(リ) 『露西亞ニ於ケルコレクチヒスムノ失敗』

一九二八年出版、獨佛版約二萬部瑞西撰擧ニ用ヒラル。佛、
獨及ブルガリヤニ讀マル。

98

9451-9



97

9451-9



I-0720

國際聯盟

聯盟ハボリシエビキ問題ヲ研究セントスル迄ニモ行カナイ。其ノ理由ハ

(一)ボリセビズムノ問題ヲ取扱フニハ實力ノ足ラサルコトヲ自覺シ居ルコト

(二)強國ノソ政府承認

(三)軍縮會議ニ於ケル獨逸ノソヴエート案支持

一九二四年以降協調常設事務局ハ絶ヘス聯盟トソヴエートノ相容レサルヲ注意シタ。又タ一九二七年五月國際經濟會議ニハ論說ヲ發表シ、ソヴエート代表ノ演說ヲ反駁シ且代表ノ經歷ヲ發表シ其如何ナル人物ナルヤヲ示シタ。軍縮會議ニモ同様ニテ『U、S、S、R及軍縮』ヲ發表シタ。要スルニ大國力其ノ態度ヲ變更セサル限り聯盟モ態度ヲ變更セナイ。依テ本協調ハ一九二八年ノコミンテルン第六回會議ノ決議ヲ各國政府及軍縮會議ニ送り「プロレタリア」ト戰ヲ

起スノガソヴエトノ目的デアアルコトヲ指摘シタ。(内亂、殖民地反亂、赤軍ノ干渉)

國際設備—教會

本協調ハ當初ヨリ重要ナル國際施設トノ聯絡ヲ計リ、例ヘハ赤十字國際委員會ニ一九二五年ソヴエート赤十字年鑑ニ内亂ヲ煽動スルノ言アルヲ告ケ、ソロベツキ島ニ於ケル被抑留婦人ノ悲境ヲ知ラシメ又タ一九二七年人質二十人殺戮ニ就テモ訴ヘタ。更ニ兒童保護會議ニ非共產黨員兒童ノ不運ヲ青年團及ボイヌ幼ウトニ赤色ピオニールノ危懼ヲ、婦人會議ニソヴエート婦人ノ運命ヲ大學關係ニ露西亞教授及學生ノ現狀ヲ、キリスト教青年會本部ニ青年ニ對スルボリシエビズムノ惡影響ヲ説イタ。尙ホ屢々キリスト教々會ニソヴエート宗教迫害及反宗教プロパガンダノ繼續ヲ知ラシメストツツホルム及ロザンヌ會議ニ「ボリシエビズム及宗教」ノバムフレットヲ配布シ且色々ノカトリック團體ニ



9451-9

100



9451-9

99

I-0720

證據ヲ提出シタ。

プロフィンテルンニ對スル經濟的企業ノ防禦

コミンテルンノ重要一部門タルプロフィンテルンノ目的ハ工業ヲ不秩序ニ陷レ之ヲ破壞シテ革命ヲ釀成セントスルノテアル。從テ工業家カ多ク政府ト取極ヲナスカ如キハ驚クヘキ事テアル。工業家ハ其ノ業務ニ多忙ナルヲ以テ本協調ハ此ノ方面ニ貢獻シ得ヘク、現在迄ニ採用セラレタル手段ハ(一)豫防及監督(二)防壓(三)共產主義宣傳及教育的宣傳テアル。以下其ノ大要ヲ擧ク。

- (一) 豫防的監督手段。 罷業、細胞組織及罷工準備等ニ通スル監督者
- (二) 防壓。 ハ共產分子ヲ秩序的ニ除去スルニアルカ、其ノリストカ調整至難ニテ又タ往々「雇主ノ迫害」ト云ハルルノテ寧ロ共產黨活動全部ニ對シテ争ヘ。
- (三) 反共產主義宣傳。 共產主義ハ幸福ヲ齎ラササル事實ヲ労働者ニ示ス。



9451-9

101

(二) 教育的宣傳。 自由、道德及經濟ノ必要ヲ説ク。例、英國經濟聯

盟ノ「資本主義救世軍」、ハーベロツク、ウヰルソン「工業

平和ノ宣傳」、ブルヘット卿。

ボリシエビキニ對スル殖民地ノ防衛

亞細亞及亞弗利赤化運動ニ關スルソヴエー卜諸機關(略)

一九二四年 協調ハ既ニ極東ニ於ケルソヴエー卜活動ニ注意

ス。

一九二六年 倫敦ニ於ケル第三回協調會議ニ「經濟聯盟」會

長ヨリ「亞細亞及亞弗利加ニ於ケルコミンテル

ン及ソヴエー卜政府活動概説」ヲ提出。

一九二七年九月 福珍督中ニ本問ヲ説ク(和蘭專家ノ筆)。

一九二七年秋 トロイブ教授和牙ニ「國際殖民局」ヲ創立シ、

本協調ト提携。

ボリシエビキノ革命術モ段々進歩ス。吾人モ努力ヲ要ス。



9451-9

102

I-0720

青年

莫斯科ハビオニール其他青少年ニ働キ掛ケテ居ル。本協調モ一九二六年各國政府及團體ニタモランドムムヲ送り、又オーベル氏自ラ講演ヲ試ミボイヌコットニ及ホス危険ヲ説キ、一九二八年ウー、ロバート、バーゲン、ボウエル氏モ此ノ危害ニ注意シタ。本協調ハ更ニ青年部ヲ設ケテ各國青年團體ト聯絡シボリシエビスムノ青年ニ浸入スルヲ防イテ居ル。



智識階級（方面）

ソ政府及第三インターノ領袖ハ革命専門家ナルヲ以テ革命ノ準備及指導ハ大衆テハ出来ナイ、科學者、技術者及文士等ノ同情及加入ヲ求メ、新聞、發表及會議ニ依ル接觸以外ニV、O、K、Gヲ設ケ、又タ各種ノ名ニ依ル支部ヲ各國ニ設ケテ居ル。本協調モ反V、O、K、Oヲ設ケタカ智識階級ハ冷淡テアル。

露西亞人ノ解放

本協調ハ露西亞人ヲ殘酷ナル暴政ヨリ解放スルタメニソヴエート政府承認反對、通商開始反對、ウレグヱット反對テアル。之レハ夫レニ依リテ彼等ハ其ノ權力ヲ強メルカラテアル。ボリシエビ等側ハ巧ミニウツヨ、パンセツテ事件ノ如キヲ米國政府攻撃ニ利用シタ。カ、文明國ノ多クハ露西亞人ノ苦惱ニ聲ヲ擧ケナイ。

露西亞人カ義ニ殉スルモ文明國ハ恥ツヘキ沈黙ヲ守ツテ居ル。從ツ



テ露西亞人間ニハ排外思想ヲ生シソヴエートハ反テ之レヲ利用シテ居ル。本協調ハ此ノ無感覺ヨリ文明國ヲ醒ス事ヲ怠ラナイ。他日聯盟モボリシニシムヲ研究シ之レト戰ハサル可カラサルヲ知ルニ至ラン。吾人ハ其ノ速ナラン事ヲ期待ス。

協調ト平和

世界各國ノ愛國者ハボリシニシムノ其ノ祖國ヲ脅カス事實ヲ見テ互ニ聯絡シ、之レニ反シテソヴエート及コミンテルンハ他國ニボリシニシムヲ革命ノ起ラン事ヲ欲シテ各國間ノ紛争ヲ期待シテ居ル。從テ本協調ハ平和維持ヲ第一義トスル、而シテ本協調ハ平和及軍縮問題ハソヴエートヲ戰爭（赤軍ノ干涉、内亂、殖民地反亂）ノ準備ヲ重要事實タル事ヲ考慮セン事ヲ求ムルモノテアル。本協調ノ任務ハ重大テアル。人或ハ吾人カ貧弱ノ資力ヲ以テ之レニ當ルノ厚顔（倨傲）及無鐵砲ナルヲ難スルモ、反ボリシニシムヲ事業ノ大ニシテ正當ナル事ヲ知レハ力カ出テ來ルノテアル。現ニ各國ニ熱心ナ協力者モアル。

各國ノ本部

一般

反ボリシニシムヲ戰闘ノ重要機關ノ一トシテ各國本部ノ設立ニ努メタ。組織ハ同シカラサルモ歐米諸國ニハ現ニ多クノ本部アリテ本協調ト聯絡ス。

各本部第一ノ事業ハ其國ニ於ケル共產黨ノ活動ニ關スル細大ノ綴込ヲ有シ、其ノ組織、補助機關及外國トノ聯絡ヲ知り且本協調ト提携スヘク本事務局ハ上下ノ關係ナク平等ニテ協力ス。

必要準備成ラハ各本部ハ其國ノ公私各機關ニ反ボリシニシムヲ變化スルニ努ムヘク、之レハ佛ノ

波ノ

如キ刊行物ニ依リテ一般ニ其ノ運動ヲ知ラシムルヲ可トス、又タ有力ナル新聞紙ニ論說又ハ通報ヲ送ルモ一方法ナラン。

反ボリシニシムヲ袖珍書ノ發表モ好成绩ニテ英、白、佛、瑞西、米、ブルガリヤ及西班牙ニテ既ニ刊行サレタ。



9451-9

106



9451-9

105

I-0720

尙ホ各本部ハ各方面ヨリ支持者ヲ獲得スヘク、原則トシテハ各人ニ其ノインテレストアル問題ヲ語ルヘシ。例ヘハ農業家ニシヤ農民ノ運命、工業家ニシヤ工業集團化ノ失敗及工場壊敗ヲ話スノ類テアル。

以下各本部カ特ニ貢獻シ得ル方面ヲ列擧スル。

警察

各國本部ハ反ボリシエビキ特別警察氣取りテ働イテハナラナイ。必要ナ智識モ力モ持ツテ居ナイノミナラス警察ハ國家機關タルヘキタカラテアル。然シ警察ト聯絡シテ情報ヲ供給シ反ボリシエビキ運動ヲ正確ナラシムル事ハ必要テアル。

軍隊

軍隊ハ其組織上ボリシエビキノ侵入ヲ拒ケル様ニ出來テ居ルカ兵士ノ間ニハ如何ナル方法テ宣傳カ行ハレルカト云フコトヲ士官カ知ラナケレハ駄目テアル。從テ各國本部ハ軍隊ノ幹部ニ(一)兵士間ニ働キ

掛クルヨミンテルンノ指令ノ趣旨(二)兵役前ノ青年間ニ於ケルヨミンテルンノ侵入(三)スポルト、インテルンノ行動及(四)内亂ニ對スル共產黨指令(内亂法典)ヲ知ラシメナケレハナラナイ。



9451-9

108



9451-9

107

I-0720



各種團體及愛國の協會

之レニハ(一)一般市民ノ団体ト(二)革命的罷業及破壊運動ニ際シテ國家ノ安全及秩序並ニ經濟的存在ヲ守ラントスル団体トノ二種カアル。各本部ハ彼等ニ共產黨戰術及情報ヲ與ヘテ機宜ニ應セシムル。從テ旨クヤレハ各団体ト好ク聯絡シ得ルトモ競争者トナル事ハナイ。反テ相互ノ力ヲ強メル。

尙ホ其他ニ色々ノ愛國団体アリテ戰闘的性質ナキモ亦リシユヒヌムニハ反對ノモノ少クナイ。各本部ハ茲ニ友人ト同志ヲ得ラル。

工業—運輸—商業—農業

各國本部ハ其ノ實業界ト聯絡シ得ルヲ以テ之レニ亦リシユヒヌムノ侵入及對抗策ヲ知ラシメル事カ出來ル。造兵廠ハ世人ノ狙フ所テアリ水兵ニ對シテハ赤色海員イシタナシヨナルアリ、農民ニ對シテモ大小農共赤化運動ハ行ハレ、又タヨレバラチーフニ赤人カ勢力ヲ得レハ破壊的革命運動ニ利用サルルノテアル。

智識階級(方面)—青年

文士、美術家及科學者カ奮發セス、否、反テV、O、K、Sノタメニ感化セララルハ遺憾テアル。カ、夫レ丈努力スヘキヲ示シテ居ル。大學ニ對シテモ偽善的人道主義ノ誘迷の迷怪ヲ戒メ、又タ學生、若キ愛國者及亦イヌヨットニ亦リシユヒヌム侵入ノ方法ト其ノ對抗策ヲ知ラシメ、婦人ニ對シテモ赤色婦人イシタナシヨナルノ行動ニ對シテ婦人、家族及兒童ヲ保護セナケレハナラナイ。多クノ青年ハ既ニ亦リシユヒヌム守衛着ニ引掛ツタ、吾人ハ先ツ此ノ上青年ガ赤化サルルノヲ防止スルニ努メ更ニ進ンデ既ニ赤化セルモノヲ奪還セナケレハナラナイ。



9451-9

110



9451-9

109

I-0720

殖民地

各母國本部ハ其ノ政府及殖民地關係者ニコミンテルニ依ル殖民地
反亂準備ニ關スル情報ヲ與フルト共ニ在和牙、國際殖民事務局ヲ介
シテ互ニ協カスヘシ。

議會

各本部ハ議政壇上ヨリ反共產主義演説ヲ試ミントスルモノニ繰込、
本協調月報及在和牙國際殖民事務局ノ通報ヲ與ヘテ之レヲ援助スヘ
ク、又タ反癩リシエビキ議會俱樂部組織ノ如キモ有力ナル手段タル
ヘク之レニハ各本部が大ニ役立ツ。

各國本部ノ任ヤ頗ル大ナリ、絶ヘサル努力ト忍耐ヲ以テ國民ヲ其ノ
冷淡無知ヨリ引出サナケレハナラナイ。

協調ノ友

或者ハ時間ナキタメ他ノ者ハ公然參加シ得サルタメ單ニ協調ノ友ト
シテ働ク者モアル。其ノ助力ハ決シテ少小テハナイ、如何トナレハ

彼等ノ數ト影響ハ常ニ増大シツツアルカラテアル。

結言

五年前ジュネーブニ集合セル小團體ハ活動セス又ハ分散シテ居ル全
世界ノ反癩リシエビキ勢力ヲ動員スルニ決シ或ハ活動ヲ開始サセ或
ハ組織ヲ作ラセテ癩リシエビキニ關スル知識ヲ與ヘ聯關方法ヲ教ヘ
共同ノ目的ヲ以テ進マセル様ニシタ。土地ト事情ニ依リ方法ハ同シ
カラサルモ常設事務局國際殖民事務局、各國本部及連絡係並ニ友人
ハ或ハ獨立ニ或ハ提携シテ活動シタ。白國、チエツコ、スバキヤ、
匈牙利及瑞西ニ於テツ政府ノ露國承認ニ反對シ又タ英ソ國交斷絶ニ
努力シタ、佛及瑞西ノ最近ノ選舉ニモ關係シタ。常設事務局ハ莫斯
科カ或ル國テ大宣傳ヲ爲サントスル計畫アルヲ知り之ヲ其ノ國ニ内
報シテ豫メ警察及立法の取締手段ヲ取ラメタコト屢々デアル。事務
局及各國本部員ハ個人的ニ歐米名士ニ接シ、之レニ情報及調査ヲ供
給シタ、東洋ニモ吾人ト接觸ヲ有スル人カ多々アル斯クシテ國際反



9451-9

112



9451-9

111

I-0720

求リシニ至ルニ至リテ戦線ハ成立シタ。ガ、吾人ハ此ノ戦線ヲ完全ニ守ル丈
 デナク進ンテ攻勢ヲ取リ勝利ヲ得ナケレバナラナイ。ソレニト側
 モ既ニ吾人ヲ怖レ大ニ協調ヲ攻撃シ故シニルジンスキ一亦大ニ協調
 ノ活動ニ注意シタ。
 協調モ進歩シタカ相手ハ世界ノ七分ノ一ヲ占メテ居リ、且ツ羊ノ皮
 ヲ被ル狼ノ如ク人目ヲ詐クコトカ巧テアルヨミシテ如キ甚大
 ナル機關ヲ作り憎悪ヲ説キ總テノ物ヲ破壊シテ之ヲ改造セントスル
 カ如キハ人類ノ歴史ニ始メテノ事ニテ人其ノ危寧ノ實際ヲ想像シ得
 ナイ。但危険ハ彼ヲ見ス、開カス又タ注意セス受身ノ状態ニ居ル處
 ニ在ルノテアル。

反第三インターナショナル國際協調
 (一九二九年創立五週年記念刊行)

緒言
 目次

- 反第三インターナショナル國際協調
- 存在ノ理由及基礎
- 一般プログラム
- 一般方略
- 協調ノ組織
- 常設事務局ノ國際的行動
- 國際情報任務
- 各國政府ニ關スル行動
- 國際聯盟
- 國際設備一教會

プロフィンテルニ對スル經濟的企業ノ防禦
 ポリシエビスムニ對スル殖民地ノ防衛
 青年
 智識階級（方面）
 露西亞人ノ解放
 協調ト平和
 各國ノ本部
 一般
 警察
 軍隊
 團體（組織）ト愛國的協會
 工業ト運輸ト通商ト農業
 智識階級（方面）ト青年
 殖民地

議會
 協調ノ友
 結言



9451-9

116



9451-9

115

I-0720

緒言

ソウエーデント全世界ノ共産黨ハ一九二七年秋其ノ政權獲得十年祭ヲ
舉行シタカ、其ノ赤廣場ニ於ケル祭典ニハ外交團モ參列シ、彼等ハ
其ノ面前ニテソウエーデント社會主義共和國ニ對シテノ威嚴ト存續カ過
去十年間ニ確保セラレタ事ヲ聲明セルハ皮肉ナシテハナイ。
然シソウエーデント外交ノ成績ニ比スレハ其ノマルクスト實驗ハ不成績
テアル。一國營工業一饑饉一物資不足一貿易一國營不成績一生活騰
貴一ノ不平ノ聲ニ對シテハ予ニツク。政權モ不安ヲ感スルカ反亂ハ
武器不足ノタメ殘酷ニ鎮壓サレ、國民ハ世界ノ情報ヲ知ラス而シテ
莫斯科政權者ハ革命ノ専門家テアル。カ無理ハ永續シナイ、例ヘハ
反宗教ヲ強ユルモ國民ハ信仰ヲ失ハナイ。加之、レニシテノ教ニ從
ヘハ世界革命ハ必要テアリ、一九二八年夏ノコミンテルン第六回會
議モ京リシニビストノ世界進出ヲ採決シテ居ル。從テ世界ハ再造ト
破壊ノ兩作用ノ間ニアル。但世界ハ比較的危險ニ無感覺テアル。只

タ吾人五ケ年ノ努力ハ世人ノ覺醒ヲ促シタルヲ信スルト共ニ吾人ノ
道カ成功ニ進ミツツアルヲ信セシムルテアラウ。



反第三インターナショナルの國際協調

存在ノ理由及基礎

(一) 欧ロシエビスムニ對抗スル鬭争ノ如キ問題ニ關シテ國際聯盟ノ頼ナキコト。

(二) 同ニ關シテ重要國ノ多數モ頼ナキコト。

(三) 輿論ノ怠緩、實ニ輿論ハ他ノ困難ヲ聞クニ倦ミ且吾人ノ文明中ノ最モ貴重ナルモノニ就テモ冷淡ナルコト。

一言ニシテ云ヘハ斯ル重要ナル問題ニ對スル支配階級ノ危險ナル程弱キ事。之レ即チ本協調存在ノ理由テアル。

一九二四年三月七号ドル・オーベル氏及其ノ友人四名ハジユネーブニ臨時事務局ヲ組織シタルカ、其ノ前年十一月四日ザンヌニ於ケルヴオロフスキ裁判事件ハ輿論モオロシエビスムノ真相ヲ聞クニ於テハ得心セシメ得ル事ヲ示シタ。次テ一九二四年六月臨時事務局ノ



努力ニ依リ十ヶ國ノ代表者ハ本協調ヲ巴里ニ置ク事ヲ決定シタ。同集會ノ採決セル決議ハ實ニ左ノ如クテアル。

本集會ハ

近代文明及各國ノ構機ハ國際的計畫ヲ以テ破壊ヲ求ムル顛覆主義

團體ノ不斷ノ攻撃ニ襲ハレツツアル事實ヲ考慮シ

第三インターナショナルハ右顛覆主義團體ノ先頭ニ立ツコトヲ考

慮シ

彼等ノ行爲ト國際的ニ戰ヒ秩序、家族、所有權及國家ノ原則ヲ防禦スル目的ノタメニ國際協調ヲ建設スル事ヲ決議ス。



一般プログラム

- (一) 各國ノ領域内ニ於ケルボリスエビ等ノ活動ノ抑制。
- (二) 新ニソウエー卜國承認ヲナス事ニ反對。
- (三) 現存外交關係ノ斷絶。右斷絶ハソウエー卜政府カコミンテルンノ假面ノ下ニ各國ノ領土内ニ於テ行フ國際法違反ノ行爲ヲ理由トスル。
- (四) 對ボリスエビスム戰鬪ノタメニ各國政府間ニ協調スルコト。
- (五) コミンテルンヲ完全ニ驅逐シ、又タ露西亞國民ヲシテコミンテルンノ代理人タルソウエー卜政府ヲ完全ニ驅逐セシムル事。而シテ之レニ代ユルニ法律ヲ尊重シ且露西亞復興ノ能力アル政府ヲ以テスル事。

一般方略

コミンテルンハ明カニ現存社會ニ敵對スル目的ヲ追フモノナルヲ以テ、之レカタメニ其ノ特別戰鬪組織ヲ有スルノ必要ヲ感シ莫斯科ニ

有力ナル參謀本部ヲ組織シ、又タ全世界ニ亘リテ多數ノ有給代理人ヲ活動セシメテ居ル。彼ハ全世界ノ七分ノ一ニ當ル露西亞ヲ領有スル結果トシテ必要ナル物資ヲ其ノ管理ノ下ニ保有シテ居ル。本協調ハ近代文明ノ主義ヲ防禦シ、反ボリスエビ等戰争ノ良好ナル結果ニ大ナル期待ヲ有スルモ餘リ積極的態度ニ出サル方面ニ活動スル。從テ現在潛在的狀態ニアル政府及個人ノ反ボリスエビ等勢力ニ活ヲ入レテ之レヲ動員セントスルモノテアル。若シ其ノ動員完成セハ確カニボリスエビ等勢力ニ對シテ優勢ヲ占ムルテアラウ。而シテ之レ實ニ本協調ノ事業ヲシテ其ノソウエー卜政府及コミンテルンノ活動手段ニ比シテ甚シク不釣合ナルニ拘ハラヌ實現可能タラシムルノテアル。

ボリスエビスムハ之レニ充分ナル注意ヲ拂ハス、且自衛及破壞防禦ニ必要ナル方法ヲ講セサル場合ニノミ危険テアル。

協調ノ組織



9451-9

122



9451-9

121

I-0720

前述ノ如ク現在反ボリシニピ等勢力ハ潜在状態ニアルヲ以テ本協調創立者モ各國ニ於ケル大團體ノ設立ハ希望セス、寧ロ反ボリシニピ等諸協會及個人ニ一層ノ力ヲ以テ積極的ニ呼掛ケテ各國内ニ能動的ノ反ボリシニピ等血脈ノ強キ流レヲ創造スルニ努メタ。カ、之レニ依リテ現社會ノ各組織體（政府、協會、其他各團體等）ハボリシニピ等ニ對抗スルノ必要ヲ信シ又タ行爲ヲ取ルニ至ルテアラウ。

次ニ協調創立者ノ準則トセルハ協調内各分子ニ廣キ獨立ヲ認メテ各分子ニ出來ル丈多クノ人ト活力ヲ得テ全体トシテ強力性ヲ得セシメントシタ事テアル。之レ協調ト云フ所以。

協調ノ外的發展及堅實性ハ創立以來五年間ニ迅速且不斷ニ増進シタ實ヲ云ヘハ協調ノ遂行シタ反ボリシニピ等行動ハ多ク其ノ名ヲ出サス又タ公表モセスシテ事務局各國本部及世界各地ノ聯絡者ノ分別アル行動ニ依リテ行ハレタノテアル。

組織ハ依然彈力性ヲ保チ、創立者カ一切ノ形式ヲ離レ各自ニ其ノ家

ノ主人トシテ世界大戰ノ際ハ相對立セル國々サヘモ包容シテ各國ノ愛國家ヲ其同戰線ニ立タシメントセル見解ノ正シキヲ示シテ居ル。國際的聯絡ハ常ニ共同ノ目的ヲ追フテ保持サレテ居ルシ即チ第三イシトナシヨナル及ソウエトト戰ハントスル事之レテアル。

反ボリシニピ等動員ヲ行ヒ、之レヲ效果的トナスカ爲メニ、本協調ハ大ナラサルモ常ニ進歩シ常ニ活動シ且諸々ノ方面ト接觸アル組織ヲ有ス、之レハ次ノ各項ヨリ成ツテ居ル。

組織、聯絡、報告及行動ノ國際的中心。

1. 協調永久事務局 (*The Permanent Bureau of the Entente*)

自治的ニシテ爾著ト聯絡

2. 國際殖民地事務局 (*The International Colonial Bureau*)

3. 各國本部（協調ノ） (*The national Centres of the Entente*)

4. 友援者（個人又ハ團體） (*The Friends of the Entente*)

常設事務局及各國本部代表者ハ毎年本協調ノ國際會議ニ會合ス。

常設事務局ノ國際的行動
常設事務局ハジュネーヴニ在リテ各國ニ亘リテ本協調ノ行動ヲ指導ス

國際情報任務

情報任務ハ本協調ノ當始ヨリ着手セル所ニシテ其ノ後非常ニ進歩シ各國本部及通信員ヨリ多數ノ情報ヲ得ルト共ニ常ニソヴエート新聞紙及コミンテルン新聞紙ニ注意シ、尙ホボリシエビスムニ關スル各種ノ著述ヲ參考トナシ、幾多ノ綴込ヲ作り之レル各國及各件別ニ分類シテ居ル。而シテ毎月其ノ研究ヲ英佛語月報トシテ發表ス。(例略)又之レヲ各國政府及通信員ニ送ル。

各國政府ニ關スル行動

情報ノ價值ハ種々ノ行動ノ基礎トナシ得ル點ニアルヲ以テ事務局ハ時宜ニ從ツテ特別刊行物ヲ發行シタ。例ヘハ

(イ)「ボリシエビスムノ恐ロシキ記録」

ハヴオロフスキ事件ニ關スルオーベル氏ノ護ニテ一九二四年英國撰擧ニ一萬部賣レタ。

(ロ)「ジモランドウム」

ハ一九二五年協調ノ國際會議ニテ採決サレテ各國政府ニ送レルモノニテ、各國ノ治安、國際平和及文明ノ道德的並法律的原則ニ對スルボリシエビスムノ危險ヲ説キ其ノ防禦協定ヲ勸告シ警察方面ニ採用サル。

(ハ)第二「ジモランドウム」

ハ一九二六年十二月一對ボリシエビスム國爭ニ關スル現在ノ問題」ヲ説キ各國政府ニ送り國交斷絶ヲ勸メタ。英國政府ハ一九二七年々頭特別會議ヲ研究シタ。

(ニ)第三「ジモランドウム」

ハワルシヤワニ於テボイエコフ暗殺後ソヴエート側カ人質二十人ヲ殺セルニ動機シテテロルヲ各國政府ニ注意シタ。



9451-9

126



9451-9

125

(本) 第四「、、、」

ハ「ソヴェート現政策」ヲ説キ一九二七年十一月和牙、反第三
イン法律會議決議ヲ各國政府ニ送ル。

(第五「、、、」

軍縮會議ヲ前ニ一九二九年二月「軍縮問題ノ一局面、プロレ
タリアート戦争」ヲ各國政府ニ説キ、ソヴェート政府ノ二元
政策ヲ語ル。

(ト) 反ボリシエビ袖珍書

一九二六年第一版、翌年再版

(チ) 各國ニ於ケル革命ニ働クソヴェート組織黨章

一九二八年英佛語各一萬部版行。

(リ) 「露西亞ニ於ケルコレクテヒスムノ失敗」

一九二八年出版、獨佛版約二萬部瑞西撰舉ニ用ヒラル。佛、
獨及ブルガリヤニ讀マル。

國際聯盟

聯盟ハボリシエビ等問題ヲ研究セントスル迄ニモ行カナイ。其ノ理
由ハ

(一) 夫レ程強イト感シナイ。

(二) 強國ノソ政府承認ニ依リテ元氣ヲ失フ。

(三) 軍縮會議ニ於テ獨逸カソヴェート案ヲ支持シタ。

一九二四年以降協調ハ絶ヘス聯盟トソヴェートノ相容レサルヲ注意
シ前記ノ各事ラシドウム及袖珍書ヲ配布シタ。又タ一九二七年五月
國際經濟會議ニハ論說ヲ發表シ、ソヴェート代表ノ主張ヲ反駁シ且
代表ノ人物ヲ評シタ。軍縮會議ニモ同様ニテ「M. S. S. R. 及軍縮」ヲ
發表シタ。要スルニ大國カ其ノ態度ヲ變更セサル限り聯盟モ態度ヲ
變更セナイ。從テ本協調ハ一九二八年夏ノコミンテルン第六回會議
ノ採決ヲ各國政府及軍縮會議ニ指摘シタ。(内亂、殖民地反亂、赤
軍ノ干涉)



9451-9

128



9451-9

127

I-0720

國際設備―教會

本協調ハ當初ヨリ重要ナル國際施設トノ聯絡ヲ計リ、例ヘハ赤十字
國際委員會ニ一九二五年ソヴエト赤十字年鑑ニ内亂ヲ煽動スルノ
言アルヲ告ケ、ソロベツキ島ニ於ケル被抑留婦人ノ悲境ヲ知ラシメ
又タ一九二七年人質二十人殺戮ニ就テモ訴ヘタ。
更ニ兒童保護會議ニ非共產黨員兒童ノ不逞ヲ青年團及ボイイスカウ
トニ赤色ピオニールノ危険ヲ、婦人會議ニソヴエト婦人ノ運命ヲ
大學關係ニ露西亞教授及學生ノ現状ヲ、キリスト教青年會本部ニ青
年ニ對スルボリスエビスムノ惡影響ヲ説イタ。
尙ホ屢々キリスト教々會ニソヴエト宗教迫害及反宗教プロパガン
ダノ繼續ヲ知ラシメストツクホルム及ロイザンヌ會議ニ「ボリスエ
ビスム及宗教」ノバムフレットヲ配布シ且色々ノカトリック團體ニ
證據ヲ提出シタ。

プロフィンテルンニ對スル經濟的企業ノ防禦

コミンテルンノ重要一部門タルプロフィンテルンノ目的ハ工業ヲ不
秩序ニ陥レテ破壊シテ革命ヲ醸成セントスルノテアル。從テ工業家
カモスク政府ト取極ヲナスカ如キハ驚クヘキ事テアル。右モ工業
家ハ其ノ業務ニ多忙ナルヲ以テ本協調ハ此ノ方面ニ貢獻シ得ヘク、
現在迄ニ採用セラレタル手段ハ(一)豫防及監督(二)防塵及(三)及共產主義
宣傳及教育的宣傳テアル。以下其ノ大要ヲ擧ク。

(一)豫防的監督手段。罷業、細胞組織及罷工準備等ニ通スル監督者
(二)防塵。ハ共産分子ヲ秩序的ニ除去スルニアルカ、其ノリヌトカ
調整至難ニテ又タ往々「雇主ノ迫害」ト云ハルルノテ寧ロ共
産黨活動全部ニ對シテ争ヘ。

(三)反共產主義宣傳。共產主義ハ幸福ヲ齎ラササル事實ヲ勞働者ニ
示ス。ハムレット。

(四)教育的宣傳。自由、道德及經濟ノ必要ヲ説ク。例、英國經濟聯
盟ノ「資本主義救世軍」、ハーペロツク、ウキルソン「工業



9451-9

130



9451-9

129

I-0720

平和ノ宣傳」・ブルヘツト卿。

ボリシエビズムニ對スル殖民地ノ防衛

亞細亞及亞弗利赤化運動ニ關スルソヴエトト諸機關（略）

一九二四年 協調ハ既ニ極東ニ於ケルソヴエトト活動ニ注意ス。

一九二六年 倫敦ニ於ケル第三回協調會議ニ「經濟聯盟」會

長ヨリ「亞細亞及亞弗利加ニ於ケルコムシンタル
ン及ソヴエトト政府活動概説」ヲ提出。

一九二七年九月 袖珍書中ニ本間ヲ説ク（和蘭専門家ノ筆）。

一九二七年秋 トロイブ教授和牙ニ「國際殖民局」ヲ創立シ、
本協調ト提携。

ボリシエビズムノ革命術モ段々進歩ス。吾人モ努力ヲ要ス。

青年

莫斯科ハピオニール其他青少年ニ働キ掛ケテ居ル。本協調モ一九二



六年各國政府及團體ニダダラシムヲ送リ、又カオール氏自ラ
講演ヲ試ミボールイヌコトニ及ホス危険ヲ説キ、一九二八年ウ
ロバート、バートン、ボウエル氏モ此ノ危害ニ注意シタ。本協調ハ
更ニ青年部ヲ設ケテ各處青年團體ト聯絡シ、ソヴエトニ對スル青年
入ヲ防イテ居ル。

智識階級（方面）

ソ政府及第三インテリゲンシアノ領袖ハ革命専門家ナルヲ以テ革命ノ準備及
指導ハ大衆テハ出來ナイ、科學者、技術者及文士等ノ同情及加入ヲ
求メ、新聞、發表及會議ニ依ル接觸以外ニV、R、Sヲ設ケ、
又々各種ノ名ニ依ル支部ヲ各國ニ設ケテ居ル。本協調モ反V、R、
R、Rヲ設ケタカ智識階級ハ冷淡テアル。

露西亞人ノ解放

本協調ハ露西亞人ヲ殘酷ナル暴政ヨリ解放スルタメニソヴエトト政
府承認反對、通商開始反對、クレヂット反對テアル。之レニ依リ



テ彼等ハ其ノ權力ヲ強メルカラテアル。
露西亞人カ義ニ殉スルモ文明國ハ恥ツヘキ沈黙ヲ守ツテ居ル。從ツ
テ露西亞人間ニハ排外思想ヲ生シソウシトハ反テ之レヲ利用シテ
居ル。本協調ハ此ノ無感覺ヨリ文明國ヲ醒ス事ヲ怠ラナイ。他日聯
盟モボリシエビスムヲ研究シ之レト戰ハサル可カラサルヲ知ルニ至
ラン。吾人ハ其ノ速ナラン事ヲ期待ス。

協調ト平和

世界各國ノ愛國者ハボリシエビスムノ其ノ祖國ヲ脅カス事實ヲ見テ
互ニ聯絡シ、之レニ反シテソウシト及コミンテルンハ他國ニボリ
シエビス革命ノ起ラン事ヲ欲シテ各國間ノ紛争ヲ期待シテ居ル。從
テ本協調ハ平和維持ヲ第一義トスル、而シテ本協調ハ平和及軍縮間

題ハプロレタリア戦争（赤軍ノ干渉、内亂、殖民地反亂）ノ準備ヲ
重要事實タル事ヲ考慮セン事ヲ求ムルモノテアル。
本協調ノ任務ハ重大テアル。人或ハ吾人カ貧弱ノ資力ヲ以テ之レ
ニ當ルノ厚顔（倨傲）及無鐵砲ナルヲ難スルモ、反ボリシエビス事
業ノ大ニシテ正當ナル事ヲ知ラハ其ノ力ヲ出サシムルノテアル。現
ニ各國ニ協力者モアル。寧ロ爲スヘキンカ餘リニ消極的テアルノテ
アラウ。

各國ノ本部

一 一般

反ボリシエビス戦争ノ重要原素ノ一トシテ各國ニ本部ノ設立ヲ努メ
タ。現ニ各國ニ其ノ組織ハ同シカラサルモ歐米ニ互リテ本部アリテ
本協調ト聯絡ス。
各本部第一ノ事業ハ其國ニ於ケル共產黨ノ活動ニ關スル細大ノ綴込
ヲ有シ、其ノ組織、補助機關及外國トノ聯絡ヲ知り且本協調ト提携

スヘク本事務局ハ上下ノ關係ナク平等ニテ協力ス。
必要準備成ラハ各本部ハ其國ノ公私各機關ニ反ボリシエビ守運動ス
ヘク、之レハ佛ノ *Yague Range* 波ノ *Nalka* *Bobogovitsmen* ノ如キ刊
行物ニ依リテ一般ニ其ノ運動ヲ知ラシムルヲ可トス 又タ有力ナル
新聞紙ニ論說又ハ通報ヲ送ルモ一方法ナラン。
反ボリシエビ守袖珍書ノ發表モ好成绩ニテ英、白、佛、瑞西、米、
ブルガリヤ及西班牙ニテ既ニ刊行サレタ。
尙ホ各本部ハ各方面ヨリ支持者ヲ獲得スヘク、原則トシテハ各人ニ
其ノインテレスアル問題ヲ語ルヘシ。例ヘハ農業家―ロシア農民
ノ運命、工業家ニロシア工業集國化ノ失敗及工場壊敗。
以下各本部カ特ニ貢獻シ得ル方面ヲ列舉スル。

警察

各國本部ハ反ボリシエビ守特別警察トシテ働クノ風カアツテハナラ
ナイ。蓋シ必要ナル智識及資力ヲ有セサル上ニ警察ハ國家機關テア

ルカラテアル。カ警察ト聯絡シテ情報ヲ供給シ反ボリシエビ守運動
ヲ正確ナラシムル事ヲ得。

軍隊

軍隊ハ自ラボリシエビ守侵入ニ對スル保護ニ必要ナル要素ヲ具備ス
ルモ、主トシテ兵士間ニ共產黨員宣傳ノ方法ヲ知ルノテアル。從テ
各國本部ハ軍隊ノ幹部ニ(一)兵士間ニ働キ掛クルコトヲ指示ルノ指令
ノ趣旨(二)兵役前ノ青年間ニ於ケルコトヲ指示ルノ侵入(三)スボルト、
インテルンノ行動及(四)内亂ニ對スル共產黨指令(内亂法典)ヲ知ラ
シメナケレハナラナイ。

各種團體及愛國の協會

之レニハ(一)一般市民ノ團體ト(二)革命的罷業及破壞運動ニ際シテ國家
ノ安全及秩序並ニ經濟的存在ヲ守ラントスル團體トノ二種カアル。
各本部ハ彼等ニ共產黨戰術及情報ヲ與ヘテ機宜ニ應セシムル。從テ
テ旨クヤレハ各團體ト好ク聯絡シ得ルト競争者トナル事ハナイ。反



9451-9

136



9451-9

135

I-0720

テ相互ノ力ヲ強メル。
尙ホ其他ニ色々ノ愛國團體アリテ戰闘的性質ナキモボリシエヒスム
ニハ反對ノモノ少クナイ。各本部ハ茲ニ友人トバルチザンヲ得ラ
ル。

工業―運輸―商業―農業

各國本部ハ其ノ實業界ト聯絡シ得ルヲ以テ之レニボリシエヒキノ侵
入及對抗策ヲ知ラシメル事カ出來ル。造兵廠ハ世人ノ狙フ所テアリ
水兵ニ對シテハ赤色海員インタ―ナシヨナルアリ、農民ニ對シテモ
大小農共赤化運動ハ行ハレ、又タコ―ペラチ―フニ赤人カ勢力ヲ得
レハ破壊的革命運動ニ利用サルルノテアル。

智識階級（方面）―青年

文士、美術家及科學者カ奮發セス、否、反テV、O、K、Sノタメ
ニ感化セララルルハ遺憾テアル。カ、夫レ丈努力スヘキヲ示シテ居ル。
大學ニ對シテモ偽善的人道主義ノ誘迷的迷怪ヲ戒メ、又タ學生、若

キ愛國者及ボリシエヒスム侵入ノ方法ト其ノ對抗
策ヲ知ラシメ、婦人ニ對シテモ赤色婦人インタ―ナシヨナルノ行動
ニ對シテ婦人、家族及兒童ヲ保護セナケレハナラナイ。
多クノ青年ハ既ニボリシエヒスム瞞着ニ引掛ツタ、吾人ハ先ツ此ノ未
來ノ赤色革命ニ力ヲ得セシムル事ヲ努ムルト共ニ既ニ赤化セルモノ
ヲ奪還セナケレハナラナイ。

殖民地

各母國本部ハ其ノ政府及殖民地關係者ニコミンテルンニ依ル殖民地
反亂準備ニ關スル情報ヲ與フルト共ニ在和牙、國際殖民事務局ヲ介
シテ互ニ協力スヘシ。

議會

各本部ハ議政壇上ヨリ反共產主義演說ヲ試ミントスルモノニ緩込、
本協調月報及在和牙國際殖民事務局ノ通報ヲ與ヘテ之レヲ援助スヘ
ク、又タ反ボリシエヒスム議會俱樂部組織ノ如キモ有力ナル手段タル



9451-9

138



9451-9

137

I-0720

ヘク之レハ各本部ハ大ニ役立ツ。
各國本部ノ任ヤ頗ル大ナリ、絶ヘサル努力ト忍耐ヲ以テ國民ヲ其ノ冷淡無知ヨリ引出サナケレハナラナイ。

協調ノ友

成者ハ時間ナキタメ他ノ者ハ公然參加シ得サルタメ單ニ協調ノ友トシテ働ク者モアル。其ノ助力ハ決シテ少小テハナイ、如何トナレハ彼等ノ數ト影響ハ常ニ増大シツツアルカラテアル。

結言

五年前ジュネーブニ集合セル小團體ハ全世界ニ散リテ活動セナイ反ボリシエビヤ勢力ヲ動員スルヲ決シ、實行ニ移リ團結ヲ計リ共同ノ目的ヲ與ヘタ。土地ト事情ニ依リ方法ハ同シカラサルモ常設事務局國際殖民事務局、各國本部及通信者並ニ友人ハ或ハ獨立ニ或ハ提携シテ活動シタ。白國、チエツコ、スロバキヤ、匈牙利及瑞西ニ於テソ政府承認ニ反對シ又々英ソ國交斷絶ニ努力シタ、佛瑞西ノ最近ノ

撰擧ニモ關係シタ。最モ屢々アリシハ莫斯科側ノ宣傳ノ多クナリシニ就テ各國ニ注意ヲ與ヘ警察及立法的手段ヲ取ラシメタ。
事務局及各國本部員ハ個人的ニ歐米名士ニ接シ、又々之レニ情報及調査ヲ供給シ歐米各國及東洋ニモ吾人ト接觸ヲ有スル人カ多々アル斯クシテ國際反ボリシエビヤ戰線ハ成立シタ。カ吾人ハ單ニ防守的テナケレハナラナイ。ソソレト側モ既ニ吾人ヲ危險視シ大ニ協調ヲ攻撃シ故ジエムジンズ等亦大ニ注意シタ。
協調モ進歩シタカ相手ハ世界ノ七分ノ一ヲ占有シテ居リ、又々羊ノ皮ヲ被ル狼ノ如ク人ヲ詐ク、彼等ノ如ク神ノ様ニ萬物ヲ改造セントスル者ハ人類ノ歴史ニ始メテ人其ノ危害ノ實際ヲ想像シ得ナイ。但彼ヲ見ス、開カス又々注意セス受身ナル状態ニ於テノミ危險ナノテアル。



9451-9

140



9451-9

139

I-0720

國際思想研究會設立趣意書

世界ノ秩序ハ東西ノ國家ガ正義人道ヲ重ンジ互ニ他ノ國體ヲ敬スルヲ以テ基調トス。然ルニ第三インターナショナルナルハ其唯物觀ニ依リテ全社會ヲ律シ宣傳、煽動、擾亂等諸有手段ヲ用ヒテ廣ク其主張ヲ強行セントス。是レ正義人道ニ悖リ獨リ我建國ノ精神ト相容レザルノミナラズ國際間ノ秩序ヲ紊スモノナリ。因リテ茲ニ國際思想研究會ヲ設立シ海外同趣旨ノ團體トモ連絡シテ第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻セントス。敢テ同憂諸賢ノ贊助ヲ冀フ。

昭和八年九月二十三日

發起人

國際思想研究會規約

第一 目的及事業

第一條 本會ハ正義人道ニ悖リ我建國ノ精神ト相容レサル第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及其活動ヲ調査檢討シ以テ我國體ノ擁護並ニ國際正義ノ推弘ニ貢獻スルコトヲ目的トス

第二條 本會ハ右目的達成ノタメ在瑞西反第三インターナショナル國際協會其他同種ノ團體ト提携シテ概ネ次ノ事業ヲ行フ

(一) 第三インターナショナル其他同種主義者ノ思想及活動ノ研究調査

(二) 第三インターナショナル其他ニ對スル日本及各國ノ對策ニ關スル研究及調査

(三) 日本及各國ニ於ケル同種ノ研究機關ト調査及情報ノ交換

(四) 講演會ノ開催、調査及報告類ノ刊行

第二 名稱及事務所



9451-9

142



9451-9

141

I-0720

第三條 本會ハ國際思想研究會ト稱シ、事務所ヲ東京市麴町區永田町二丁目六十二番地ニ置ク

第三 會員

第四條 本會ノ趣旨ニ贊同シ理事會ノ推薦ニ依リテ入會セル者ヲ以テ會員トス
會員ニシテ本會ノ趣旨ニ反スル者ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルヘシ

第四 役員

第五條 本會ニ相談役若干名理事三名及主事一名ヲ置ク

第六條 理事ノ更迭ハ理事及相談役ノ合議ニ依ル

理事會ハ會務ヲ執行ス

理事會ハ常務理事一名ヲ互選ス

理事會ハ常務理事ヲシテ常務ヲ綜攬シ且本會ヲ代表セシム

第七條 相談役ハ理事會之レヲ委嘱シ重要會務ノ相談ニ與ル

相談役中一人ヲ會計監督トシ理事會之レヲ委嘱ス

第八條 主事ハ理事會之レヲ囑托ス

主事ハ一般ノ事務ヲ司ル

第五 會計

第九條 本會ノ諸經費ハ、寄附金及事業收益其他ヲ以テ之レヲ支辨ス

補 則

本會創立ニ際シテハ發起人ニ於テ理事及相談役ヲ委嘱ス



9451-9

144



9451-9

143

I-0720

國際思想研究會會計規則

第一條 本會ノ收入支出ハ規約第九條ノ規定ニ依ル

第二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

收入支出ノ事務ハ年度經過後三十日以内ニ完結スベシ

第三條 主事ハ毎會計年度開始前ニ翌年度ノ收支決算書ヲ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

第四條 主事ハ毎月ノ收支計算書ヲ作製シ證據書類ノ原本又ハ副本ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ常務理事ニ提出スベシ

第五條 主事ハ收支計算書及ヒ決算明細書ヲ翌年度五月二十日迄ニ理事會及會計監督ニ提出シテ承認ヲ受クベシ

主事ハ其際備品目録ヲ添附スベシ

第六條 主事ハ其保管スル金員ノ保管及出納方法ニ關シテ豫メ常務理事及會計監督ノ認許ヲ受クベシ

第七條 一口五十圓以上ノ器具書籍類文房具等ノ購入ハ豫メ常務理事ノ承認ヲ受クベシ



9451-9

146



9451-9

145

I-0720

電 信 案	アトリス花通	修藤古使入	莫電才名号ノ用ニ	第 一 六 號	電送第 昭和8年10月4日午後4時	17515	號	管主
					件 アトリス花通 為藤忠雄研家會	宛 春香 古使	任主	
外 務 省					名 件 録 記	發 廣田大良		昭 和 年 月 日 起 草

電信課長

7.22



9451-9

147

I-0720

電信寫

秘

手
引
ス

昭和8

晴

本
省

十月五日
午後

歐

廣田外務大臣

大使

第二六號

貴電第一二號ニ關シ

佐藤ヨリ

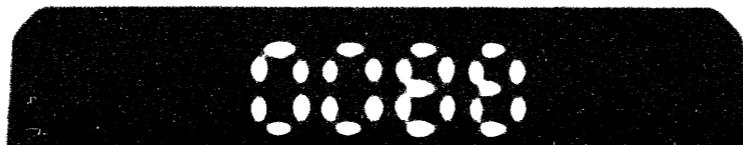
國際思想研究會加盟ノ條件ハ先方ニ於テ全部快諾セリ
本總務報
同會「アドンス」電報アリ度シ

S

9451-9

149

I-0720



10.19

電信課長

大臣
次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會計

寫
送
先

I4.5.1.9

昭和8 二〇二三二 暗 壽府 十三日後發 歐一
本省 十月十四日前着

大使

廣田外務大臣
第二七號
貴電第一四號ニ關シ
佐藤ヨリ

當地反共產主義會議ハ本月九日以後三日間ニ亘リ開催十五箇國ノ同種團體代表二十數名及幹部等約十名出席シ會長及幹部ノ準備セル報告(歐洲及極東ニ於ケル赤化運動力如何ニ重要ナル影響ヲ國際政局ニ及ホシツツアルカヲ述ヘタルモノ)ヲ基礎トシ各方面ノ反「ナツジ」運動ヲ莫斯科カ利用セントスル危險ナル事情ノ下ニ於ケル反共

外
務
省

9451-9 150

産運動ノ立場及工業労働者ノ間ニ於ケル該運動ノ手段方法等ニ關シ意見ヲ交換シ「マルクス」主義反抗戰ノ益々緊要ナルヲ聲明スル決議ヲ採擇セリ又稻垣ハ貴電第一五號研究會設立趣意書及貴電第一三號極東ニ於ケル共產黨ノ活動ニ關スル報告ヲ披露シ且本邦諸新聞ヨリ發表サレタル資料ニ基キ過去一、二年間ノ本邦ニ於ケル共產黨運動及赤化防止ニ關スル實況概要ヲ説明セルニ出席者一同我方ノ協力ヲ喜ヒ且深厚ナル謝意ヲ表セル趣ナリ委細郵報ス
尙今後本件關係事務ハ聯盟事務局ニ於テ管掌ノコトト致度ク御含置ヲ請フ

外
務
省

9451-9 151

I-0720

若方ヨリ願望ヲ
 4局先依新
 申掛ヲ取次
 コトハ差支ナキ
 コトニ希ムル長
 ト請解活
 也

電信案	今度ハ 本報「止ム」得ヤル場合ハ 外研室令 予直接稱取ト連絡ヲトシ 採措至シテ 以テ付取ニ承知アリヌシ
-----	--

9451-9 153

此際ハ
 經由ヤルハ
 縮見ナ

條約局長

電信案	当方トシテハ 直電ヲニテ号後段ニ関シ 外務省	電送第 18558 號 昭和 8 年 10 月 23 日 午後 5 時 30 分發 宛 在香符 大外務省 外務省 係ノ今ハ、周ハ、件 第一七號 名件録記 發 廣田大臣	主任 昭 和 年 月 日 起草
-----	------------------------------	---	-----------------------------------

9451-9 152

23 15

I-0720

秘

電信寫

1107
表
1107
1107

本省 十月十四日 前着

大伴

第二七號

世電第一四號ニ關シ

佐藤ヨリ

當地反共手藝會議ハ本月九日以後三日間ニ亙リ開催十五箇國ノ同
種團體代表二十數名及幹部等約十名出席シ會長及幹部ノ準備セル報
告ニ歐洲及極東ニ於ケル赤化運動カ如何ニ重要ナル影響ヲ國際政局
ニ及ホソソソアルカヲ述ヘタルモノヲ基礎トシ各方面ノ反共ナ
ル運動ヲ莫斯科カ利用セントスル危險ナル事情ノ下ニ於ケル反共

運動ノ立地及工務等者ノ間ニ於ケル該運動ノ手段方法等ニ關シ
意見ヲ交換シテハルタス。主戰反共黨ノ益々緊要ナルヲ聲明スル決
意ヲ再發セリ又極東ハ昔年第一五號研究會設立趣意書及昔年第一三
號極東ニ於ケル共產黨ノ活動ニ關スル報告ヲ披露シ且本報談新聞ヨ
リ發表サレタル資料ニ基キ過去一、二年間ノ本邦ニ於ケル共產黨運
動及赤化防止ニ關スル實況概要ヲ説明セルニ出席者、同我方ノ協力
ヲ喜ビ日深厚ナル謝意ヲ表セル趣ナリ委細郵報ス
尚今後本件關係事務ハ聯即事務局ニ於テ管掌ノコトト致用ヲ和會諸
ヲ謝



9451-9

155



9451-9

154

I-0720

在壽府佐藤大使發電報

十月九日ヨリ三日間ニ亘リ當地ニ於テ開催セラレタル反共產主義會議ハ十五箇國ノ同種團體代表二十數名及幹部等約十名出席シ會長及幹部ノ準備セル歐洲及極東ニ於ケル赤化運動カ國際政局ニ及ホス影響ノ重要性ヲ述ヘタル報告ヲ基礎トシ各方面ノ反「ナツジ」運動カ莫斯科ニヨリ利用セラレントスル危險ナル事情ノ下ニ在ル反共產運動ノ立場及工業労働者ノ間ニ於ケル該運動ノ手段方法等ニ關シ意見ヲ交換シ反「マルクス」主義運動ノ益々緊要ナルヲ聲明スルコトヲ決議セリ尙稻垣ハ國際思想研究會設立趣意書及極東ニ於ケル共產黨ノ活動ニ關スル報告ヲ披露シ且本邦諸新聞ノ發表セル資料ニ基キ過去一、二年間ノ本邦ニ於ケル共產黨運動及赤化防止ノ實況概要ヲ説明セル處出席者一同我方ノ協力ヲ多トシ深厚ナル謝意ヲ表セル趣ナリ委細郵報ス

外務省



9451-9

158

在壽府佐藤大使發電報

十月九日ヨリ三日間ニ亘リ當地ニ於テ開催セラレタル反共產主義會議ハ十五箇國ノ同種團體代表二十數名及幹部等約十名出席シ會長及幹部ノ準備セル歐洲及極東ニ於ケル赤化運動カ國際政局ニ及ホス影響ノ重要性ヲ述ヘタル報告ヲ基礎トシ各方面ノ反「ナツジ」運動カ莫斯科ニヨリ利用セラレントスル危險ナル事情ノ下ニ在ル反共產運動ノ立場及工業労働者ノ間ニ於ケル該運動ノ手段方法等ニ關シ意見ヲ交換シ反「マルクス」主義運動ノ益々緊要ナルヲ聲明スルコトヲ決議セリ尙稻垣ハ國際思想研究會設立趣意書及極東ニ於ケル共產黨ノ活動ニ關スル報告ヲ披露シ且本邦諸新聞ノ發表セル資料ニ基キ過去一、二年間ノ本邦ニ於ケル共產黨運動及赤化防止ノ實況概要ヲ説明セル處出席者一同我方ノ協力ヲ多トシ深厚ナル謝意ヲ表セル趣ナリ委細郵報ス

外務省



9451-9

159

I-0720

在壽府佐藤大使發電報
十月九日ヨリ三日間ニ亙リ當地ニ於テ開催セラレタル反共産主義會
議ハ十五箇國ノ同種團體代表二十數名及幹部等約十名出席シ會長及
幹部ノ準備セル歐洲及極東ニ於ケル赤化運動カ國際政局ニ及ホス影
響ノ重要性ヲ述ヘタル報告ヲ基礎トシ各方面ノ反「ナツジ」運動カ
莫斯科ニヨリ利用セラレントスル危險ナル事情ノ下ニ在ル反共産運
動ノ立場及工業労働者ノ間ニ於ケル該運動ノ手段方法等ニ關シ意見
ヲ交換シ反「マルクス」主義運動ノ益々緊要ナルヲ聲明スルコトヲ
決議セリ尙稻垣ハ國際思想研究會設立趣意書及極東ニ於ケル共産黨
ノ活動ニ關スル報告ヲ披露シ且本邦諸新聞ノ發表セル資料ニ基キ過
去一、二年間ノ本邦ニ於ケル共産黨運動及赤化防止ノ實況概要ヲ説
明セル處出席者一同我方ノ協力ヲ多トシ深厚ナル謝意ヲ表セル趣ナ
リ委細郵報ス

外務省

9451-9

160

在壽府佐藤大使發電報
十月九日ヨリ三日間ニ亙リ當地ニ於テ開催セラレタル反共産主義會
議ハ十五箇國ノ同種團體代表二十數名及幹部等約十名出席シ會長及
幹部ノ準備セル歐洲及極東ニ於ケル赤化運動カ國際政局ニ及ホス影
響ノ重要性ヲ述ヘタル報告ヲ基礎トシ各方面ノ反「ナツジ」運動カ
莫斯科ニヨリ利用セラレントスル危險ナル事情ノ下ニ在ル反共産運
動ノ立場及工業労働者ノ間ニ於ケル該運動ノ手段方法等ニ關シ意見
ヲ交換シ反「マルクス」主義運動ノ益々緊要ナルヲ聲明スルコトヲ
決議セリ尙稻垣ハ國際思想研究會設立趣意書及極東ニ於ケル共産黨
ノ活動ニ關スル報告ヲ披露シ且本邦諸新聞ノ發表セル資料ニ基キ過
去一、二年間ノ本邦ニ於ケル共産黨運動及赤化防止ノ實況概要ヲ説
明セル處出席者一同我方ノ協力ヲ多トシ深厚ナル謝意ヲ表セル趣ナ
リ委細郵報ス

外務省

9451-9

161

I-0720

I 951.9

國際思想研究會報

第壹號

昭和八年十一月發刊

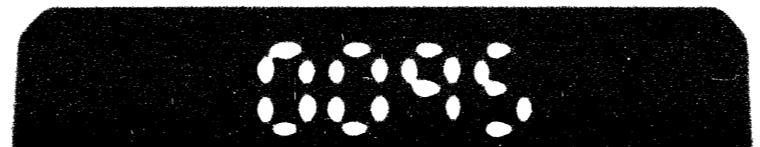
國際思想研究會
編輯部
東京
三



9451-9

162

I-0720



國際思想研究會々報 第一号

(昭和八年十月発刊)

目次

井田常務理事

題 言

第一 本會設立の趣旨及事業

- (一) 設立の趣旨
- (二) 着手の事業

第二 各国は如何に第三インターナショナルと戦はんとするや

第三 其一 瑞西に於ける反第三インターナショナルの活動
ソウペート・ユニオンに関する考察及情報

(一) 埃国モツス教授の考察

(二) 國ザリゲル教授の考察

(三) 批判と統計

第四 支那に於ける共産主義運動

(一) 支那に於ける共産主義勢力の因解ニシテ

(二) 支那新聞紙の共産運動觀

(三) 欧米人の支那共産運動觀



9451-9

164



9451-9

163

I-0720

昭和八年十一月發刊

國際思想研究會報

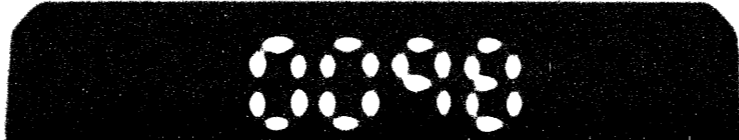
第一號



9451-9

165

I-0720



國際思想研究會々報 第一号

(昭和八年十月発刊)

目次

題言

井田常務理事

第一 本會設立の趣旨及事業

- (一) 設立の趣旨
- (二) 着手の事業

第二 各国は如何に第三インターナショナルと戦はんとするや

其一 瑞西に於ける及第三インターナショナルの活動

第三 ソウプト・ニクシニ関する考察及情報

(一) 埃国モツス教授の考察

(二) 國ザリゲル教授の考察

(三) 批判と統計

第四 支那に於ける共産主義運動

(一) 支那に於ける共産主義勢力の因解ニシ

(二) 支那新聞紙の共産運動觀

(三) 欧米人の支那共産運動觀



9451-9

167



9451-9

166

I-0720

研究叢書第一冊

第三インターナショナルに関する研究

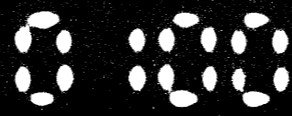
国際思想研究会



9451-9

168

I-0720



第三インターナショナルに関する研究

(昭和八年十一月発表)

目次

第一

第三インターナショナル解説及

第三インターナショナル創立以来の諸會議

附 (一) オーストリア及オーストリア半島の諸會議
(二) オーストリア半島の諸會議の光景

第二

ソウエーデン政府及第三インターナショナルの亞細亞及

亞非利加赤化運動

ホリシエビキの内乱戰術

(一) 滿洲事變を反第三インターナショナルの

立場より見て

(二) 支那共産運動一般

(終)

附録



9451-9

169

I-0720

昭和八年十月三十日 中央日報

民衆ニ告グルノ書

蔣委員長及前方赤匪討伐將士慰勞ノ為ニ全市民衆ニ告グルノ書

赤匪ハ内ニ國脈ヲ摧キ外ニ寇讎ヲ招キ國難日ニ重大ニ趨キ民衆日ニ益々危急ナルヲ致ス。近次ハ更ニ江西ニ嘯集シ四川ニ分擾シ肆意ニ同胞ヲ屠殺シ農村ヲ破壊シ並ニ抗日軍事ヲ牽制シ暴日ト遙カニ相呼應シ互ニ相勾結シ中華民國ノ傾覆ヲ企図ス。此ノ如キ内禍除カサレハ民ハ命ニ堪ハス國ハ將ニ分裂セシトス。政府ハ爰ニ全カヲ以テ前進討伐シ以テ迅速撲滅ヲ謀ルコトヲ決シ、蔣委員長ハ此重寄ニ膺リ躬ヲ匪境ニ臨ミ坐鎮指揮セリ。現ニ江西省ノ赤匪ハ長キ包圍討伐ト嚴密ナル封鎖トニ因テ已ニ窮途末日ニ至レリ。



9451-9

170

最近蔣委員長ハ復々國軍ヲ調集シテ大挙進撃手セリ。固ヨリ一氣蕩平ニ難ラス。此次赤匪討伐工作ノ総結束ハ其成敗ハ實ニ完全ナル國家民族ノ存亡ニ關係セリ。故ニ我等ハ民ノ為ニ害ヲ除キ且ノ為ニ禍ヲ除ク堅~~苦~~卓絶ノ蔣委員長及前方ノ死生ニ出入スル赤匪討伐ノ將士ニ對シテ自ラ無限ノ欽敬ヲ表示シ、並ニ慰勞ヲ加フベシ。同時ニ匪区ノ流離所ヲ失ヒ飢寒交モ迫ル災民ニ對シテモ亦タ救済ト慰勞トヲ予ヘ以テ匪区災勸~~亦~~ヲシテ生息ヲ遂ルヲ得セシメ、以テ討匪將士ヲ鼓勵シ速ニ大功ヲ奏セシム。凡テ此ハ皆ナ我等ノ尽スヘキ義務トナス。此カ為ニ本會ハ持ニ前方赤匪討伐ノ將士ヲ慰勞シ、並ニ匪区被難同胞ノ救済ヲ發起セリ。希クハ全市民衆ハ此種ノ意義ノ重大ナルコトヲ明カニシテ致



9451-9

171

奮起ニ踴躍輸送セヨ厚望アリ
中国国民党南京特別市執行委員會



9451-9

172

I-0720

